

Ⅱ 統計編 最新がん統計

1. がん罹患（罹患数、部位割合）

2019年沖縄県において、男性 4,815 件、女性 3,932 件、性別不詳 1 件、合計 8,748 件が新たにがんと診断された（上皮内がんを除く）（図 1）。

本県における、罹患数上位 10 部位およびその他部位について、部位割合（%）示した（図 2）。

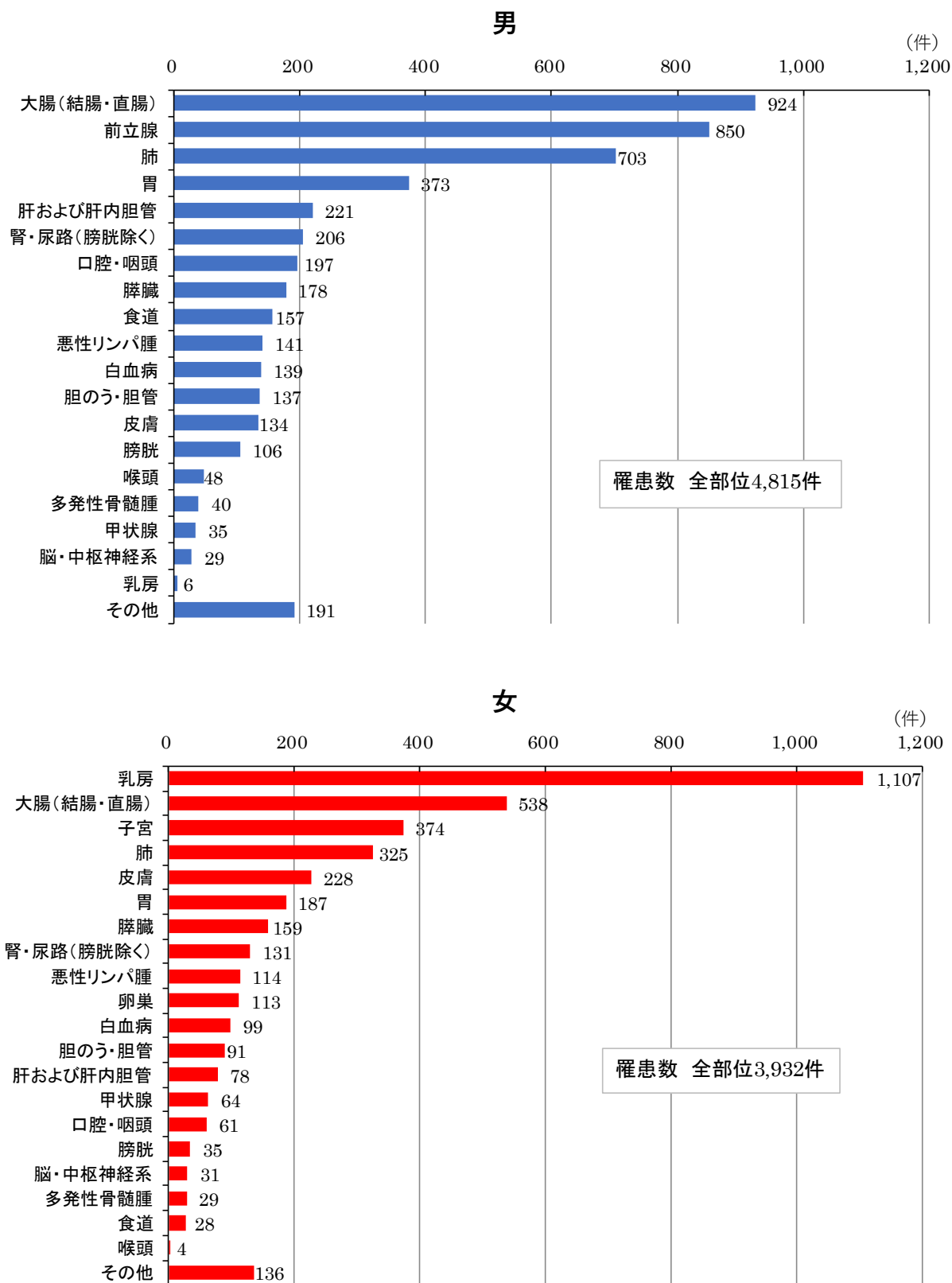
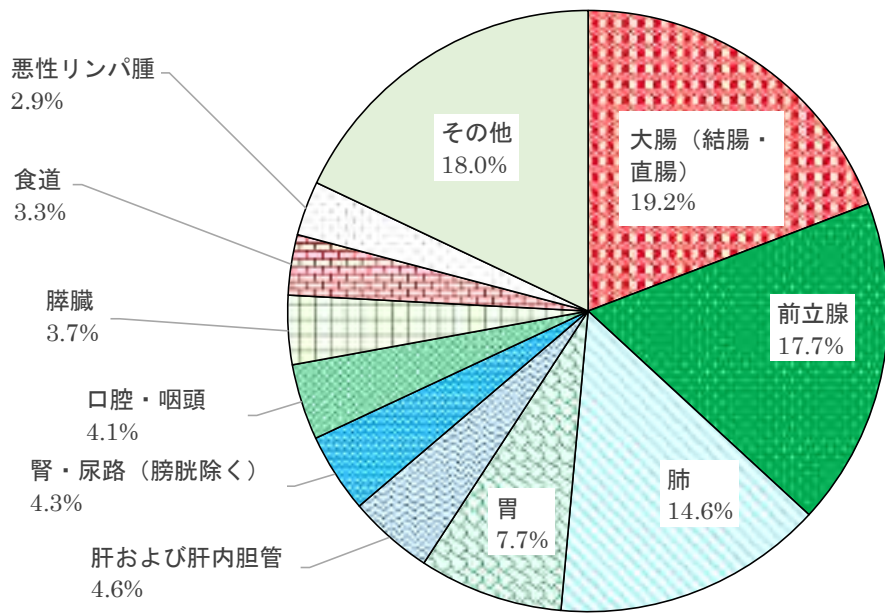


図 1 罹患数：部位別（表 1-A から作成。上皮内がん除く。沖縄県）

沖縄県男（罹患数割合％） 2019年



沖縄県女（罹患数割合％） 2019年

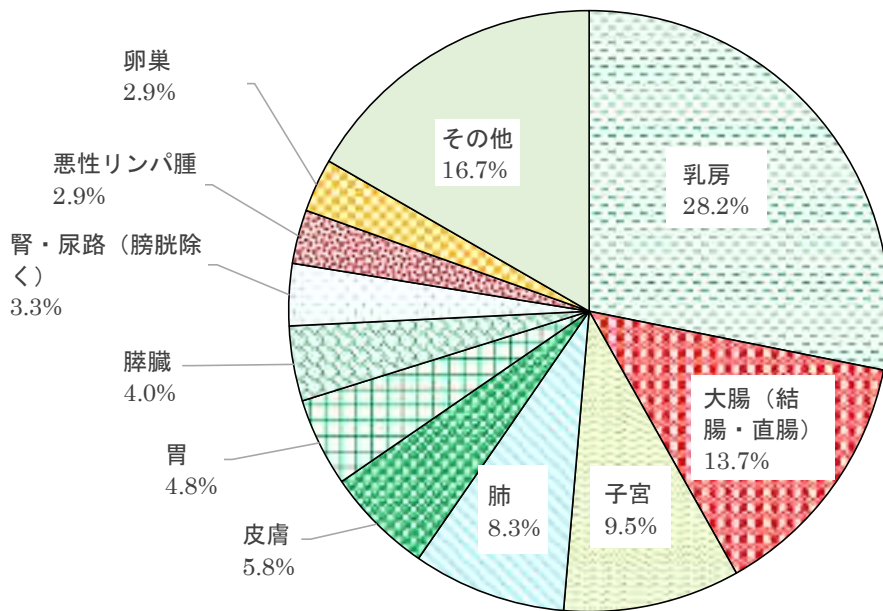


図 2 部位割合 (%) (表 1-A から作成。上皮内がん除く。沖縄県)

2. がん罹患(年齢階級別罹患数、年齢階級別罹患率)

2019年沖縄県におけるがんの罹患数(上皮内がんを除く)を年齢階級別にみると、15-39歳、40-64歳では男性よりも女性の方が多。男性では、65-74歳(31.6%)、女性では、40-64歳(34.8%)が、罹患数が最も多い年代であった(図3)。

年齢階級別罹患数(部位別)にみると、最も多い部位は、男性の場合、15-39歳では悪性リンパ腫、40-64歳、65-74歳では大腸(結腸・直腸)、75-84歳では前立腺、85歳以上では肺となっていた。女性は、15-39歳、40-64歳、65-74歳、75-84歳では乳房、85歳以上では大腸(結腸・直腸)となっていた。AYA世代(思春期から若年成人、15-39歳)の女性は、他部位に比べ、子宮、乳房の罹患数が多かった(図4-1～図4-3)。

男性は、女性に比べて多くの部位で年齢階級別罹患率が高く、加齢に伴う増加も急激であった。女性では、乳房は50-54歳、70-74歳に二峰性を認める分布となっている。子宮頸部は、30-34歳から罹患がみられ、増加し、40-44歳が最も高かった(図5-1～図5-3)(上皮内がんを除く。性別および年齢不詳を除く)。

		14歳以下 (小児)	15-39歳 (AYA世代)	40-64歳	65-74歳	75-84歳	85歳以上	合計	小児・ AYA世代 (再掲)
沖縄県 2019	男	32 (0.7%)	95 (2.0%)	1,160 (24.1%)	1,523 (31.6%)	1,356 (28.2%)	649 (13.5%)	4,815 (100.0%)	127 (2.6%)
	女	15 (0.4%)	177 (4.5%)	1,367 (34.8%)	892 (22.7%)	815 (20.7%)	666 (16.9%)	3,932 (100.0%)	192 (4.9%)
全国 2019	男	1,151 (0.2%)	6,757 (1.2%)	101,335 (17.9%)	193,414 (34.1%)	190,705 (33.7%)	73,098 (12.9%)	566,460 (100.0%)	7,908 (1.4%)
	女	966 (0.2%)	13,867 (3.2%)	120,944 (28.0%)	106,816 (24.7%)	113,136 (26.2%)	76,877 (17.8%)	432,606 (100.0%)	14,833 (3.4%)

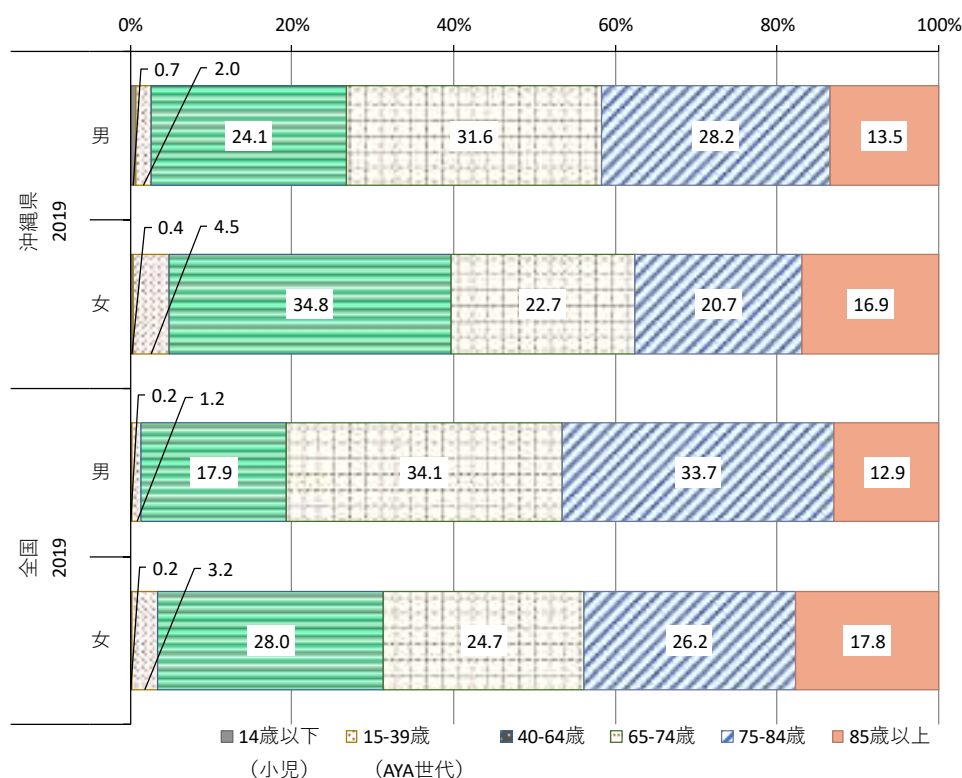


図3 年齢階級別罹患数割合(%) (表2-Aから作成。上皮内がん除く。)



図 4-1 年齢階級別罹患数：部位別（表 2-A から作成。上皮内がん除く。沖縄県）

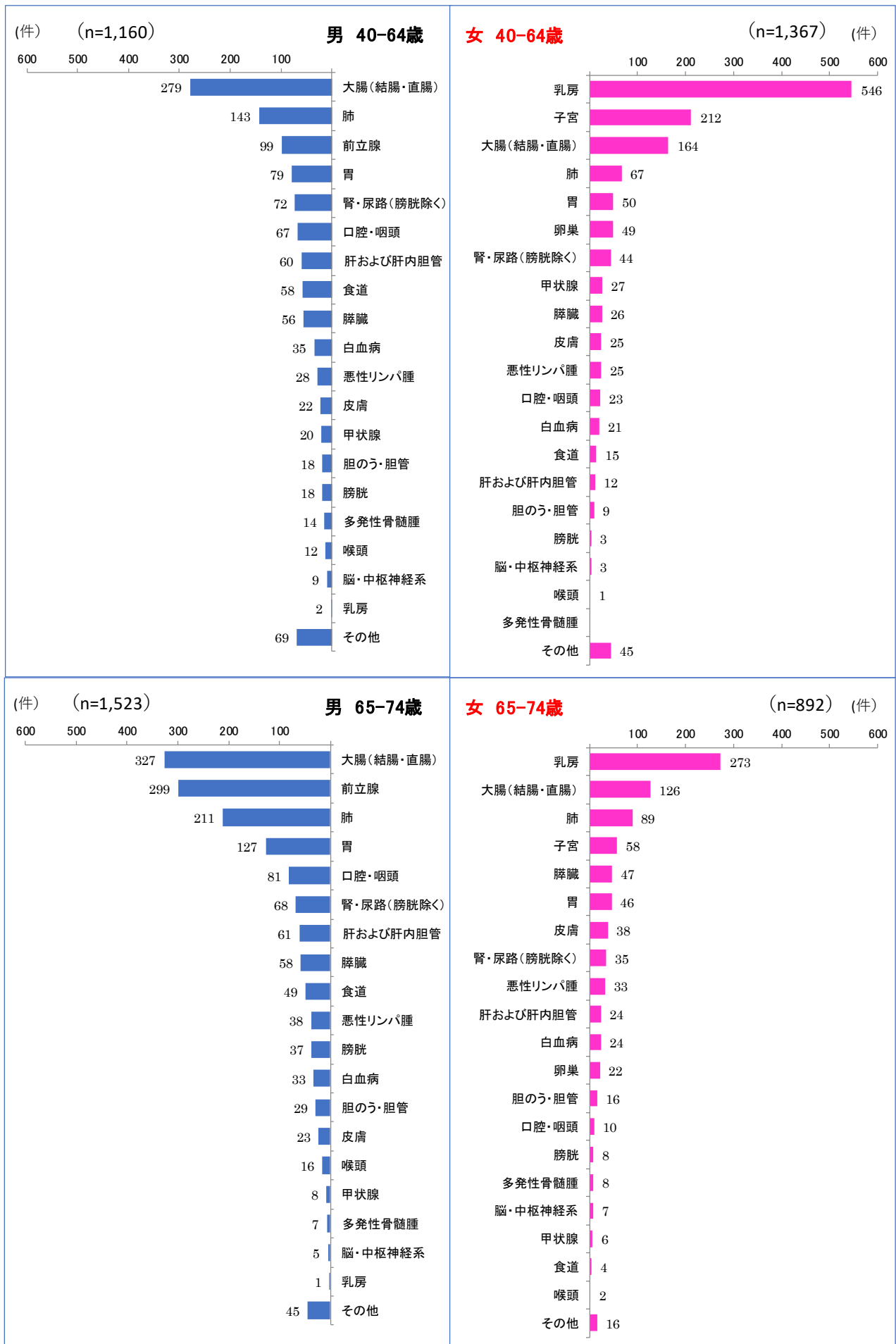


図 4-2 年齢階級別罹患数: 部位別 (表 2-A から作成。上皮内がん除く。沖縄県)

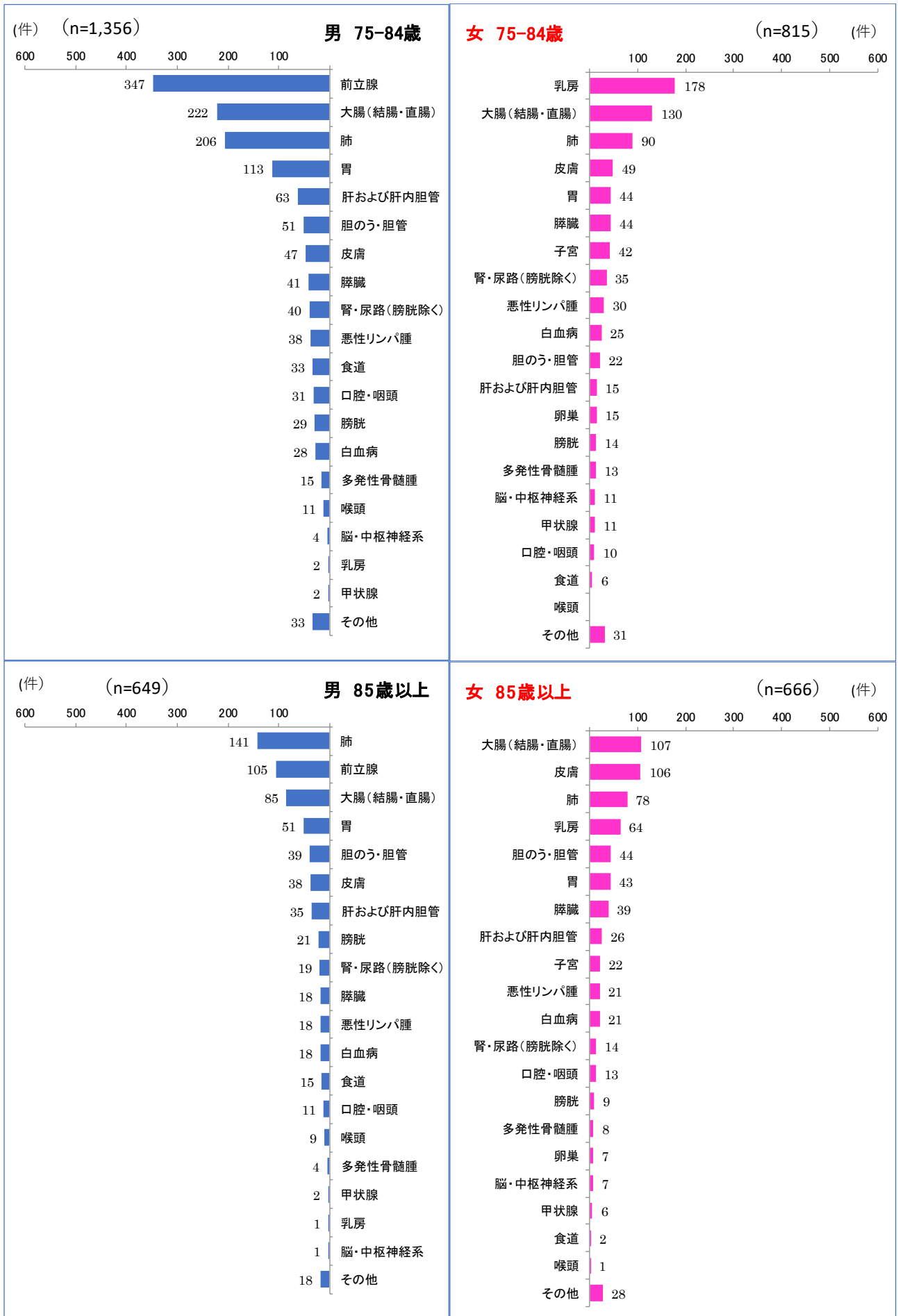


図 4-3 年齢階級別罹患数: 部位別 (表 2-A から作成。上皮内がん除く。沖縄県)

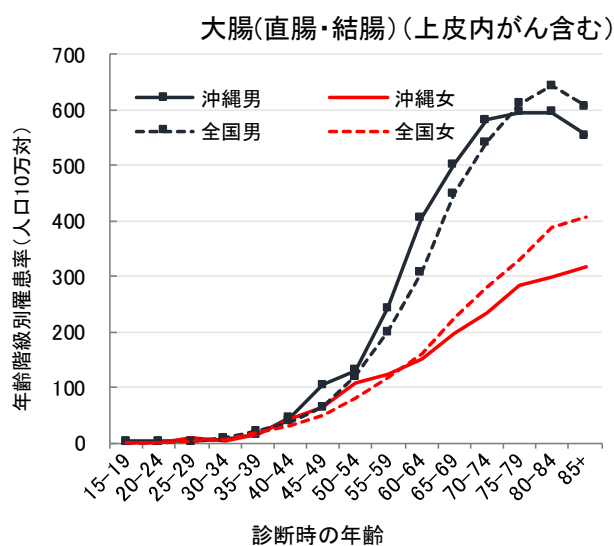
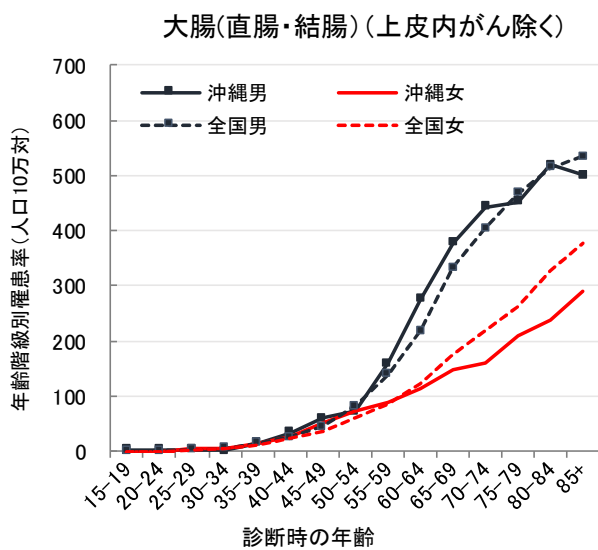
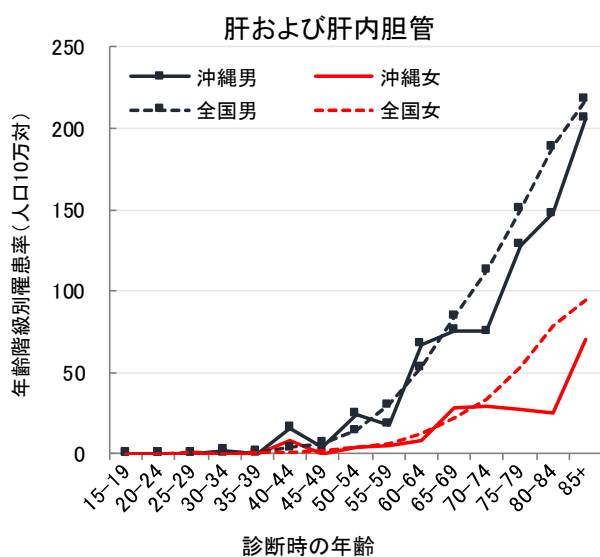
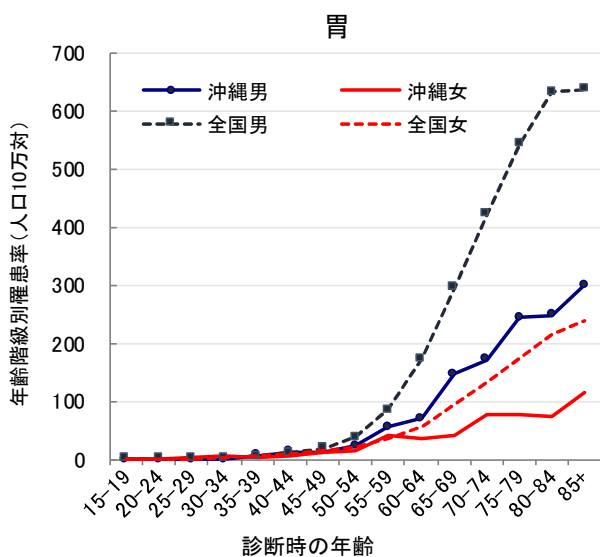
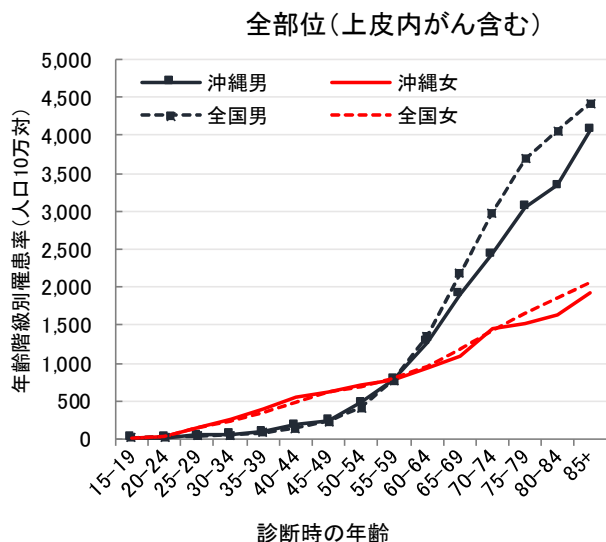
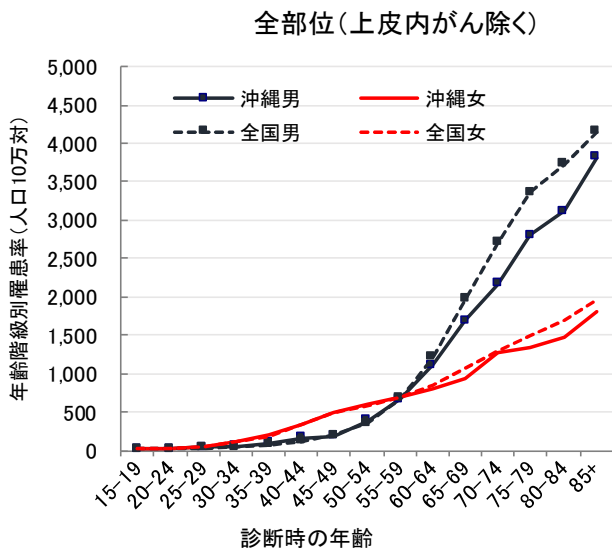


図 5-1 年齢階級別罹患率:人口 10 万対 (表 3-2-A、表 3-2-B から作成。全国値 2019 年)

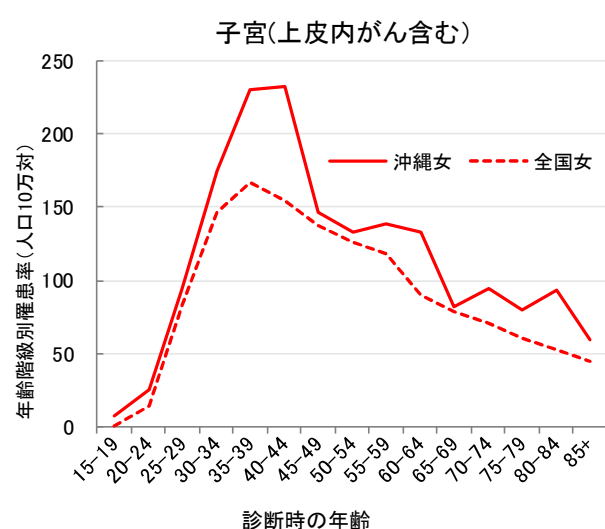
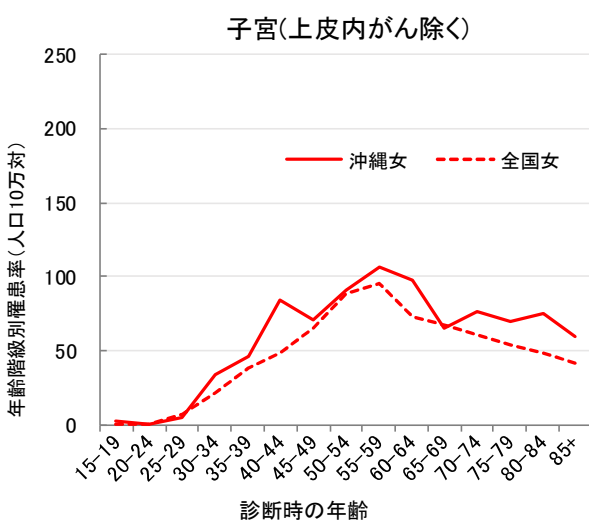
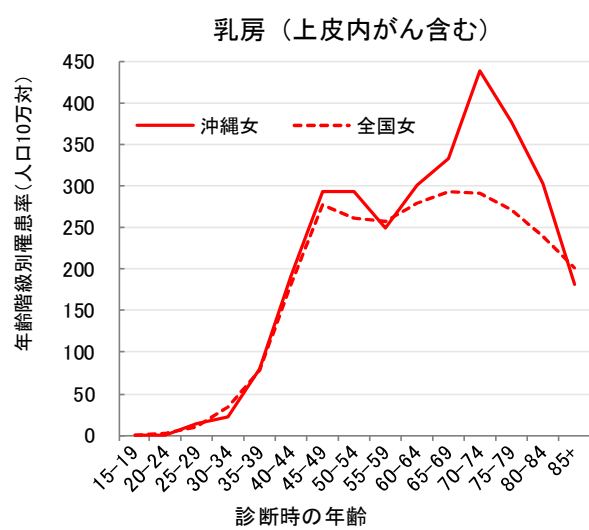
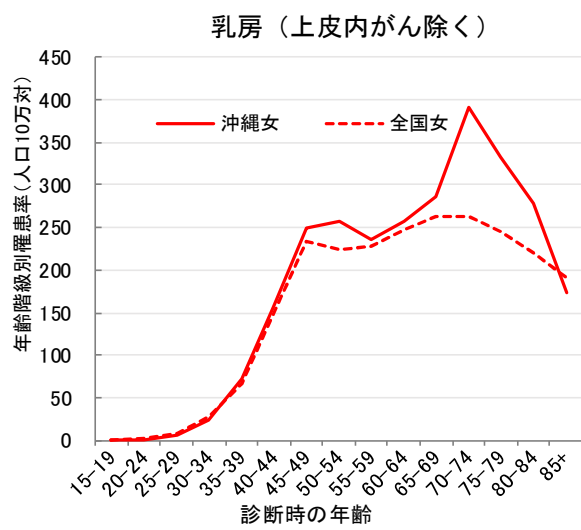
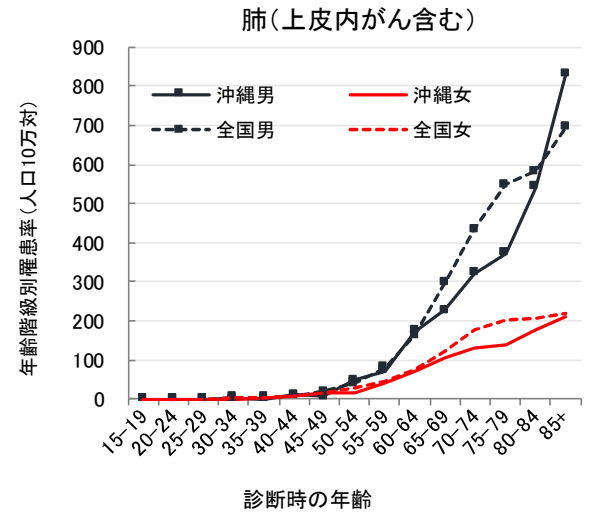
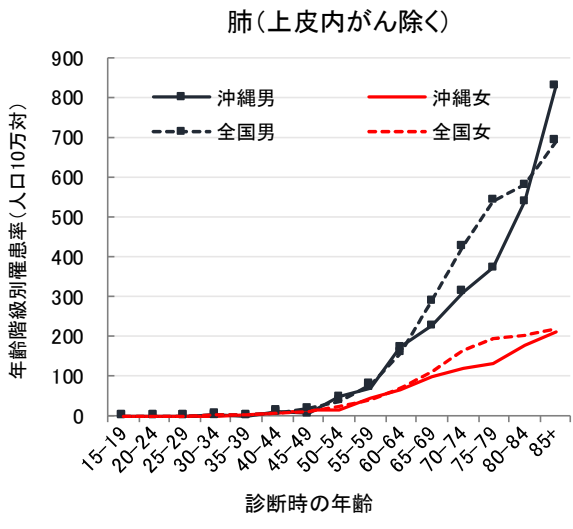


図 5-2 年齢階級別罹患率:人口 10 万対 (表 3-2-A、表 3-2-B から作成。全国値 2019 年)

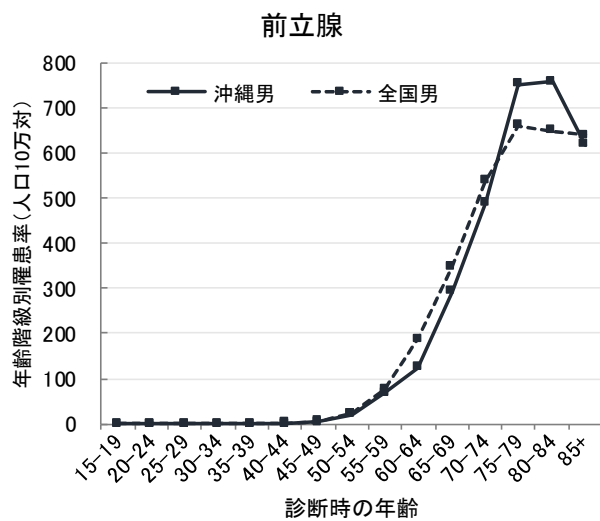
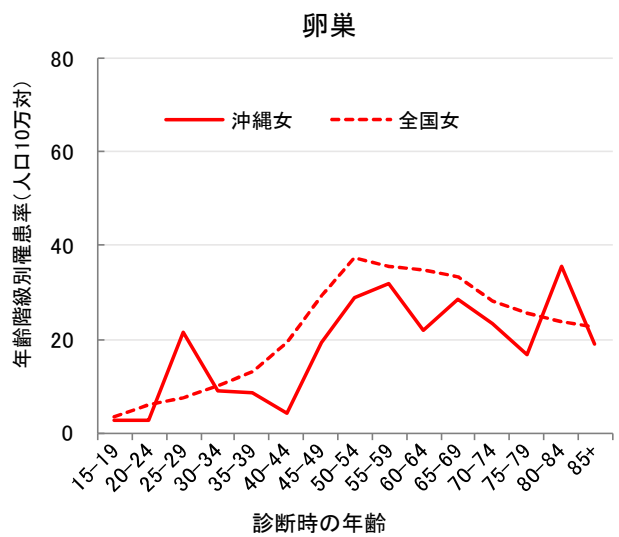
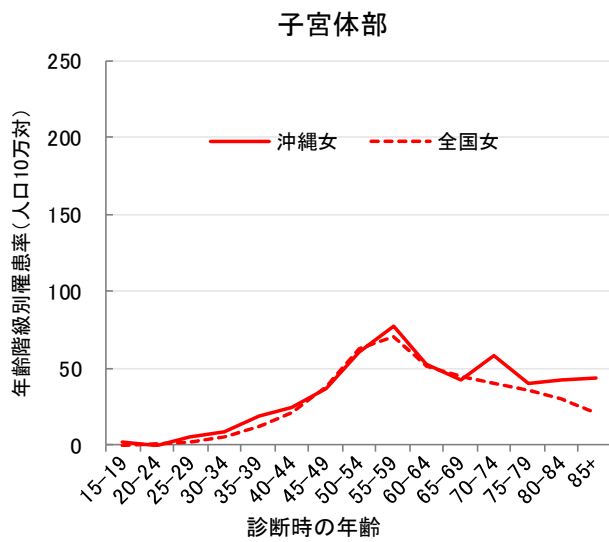
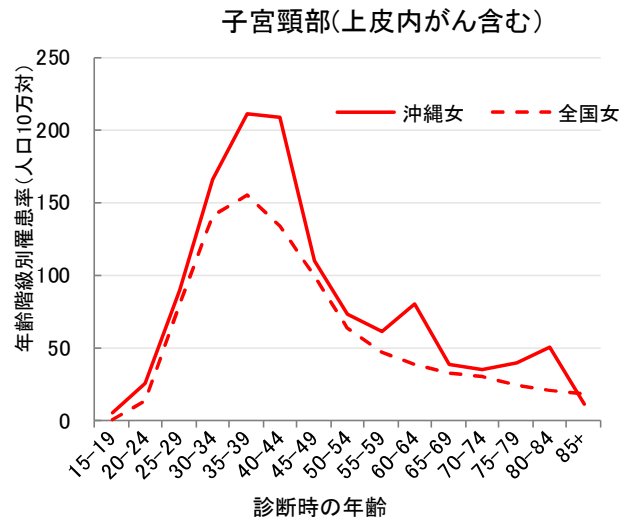
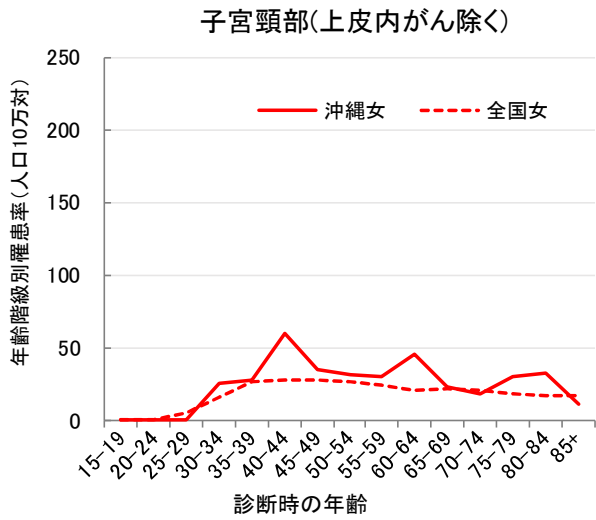


図 5-3 年齢階級別罹患率:人口 10 万対 (表 3-2-A、表 3-2-B から作成。全国値 2019 年)

3. がん罹患（年齢調整罹患率）

年齢調整罹患率について、部位別に全国と比較した(図 6)。

沖縄県(男性)が、大腸(結腸・直腸)、前立腺、肺、胃の順に高い値であるに対し、全国(男性)では、大腸(結腸・直腸)、前立腺、胃、肺の順であった。沖縄県(女性)は、乳房、子宮、大腸(結腸・直腸)、肺の順に高い値であるに対し、全国(女性)では、乳房、大腸(結腸・直腸)、子宮、肺の順であった。

全国と比較して、男性は大腸(結腸・直腸)、口腔・咽頭、胆のう・胆管、喉頭が、女性は乳房、子宮、が、高い値であった。男女ともに皮膚、白血病、腎・尿路(膀胱を除く)は値が高かった。

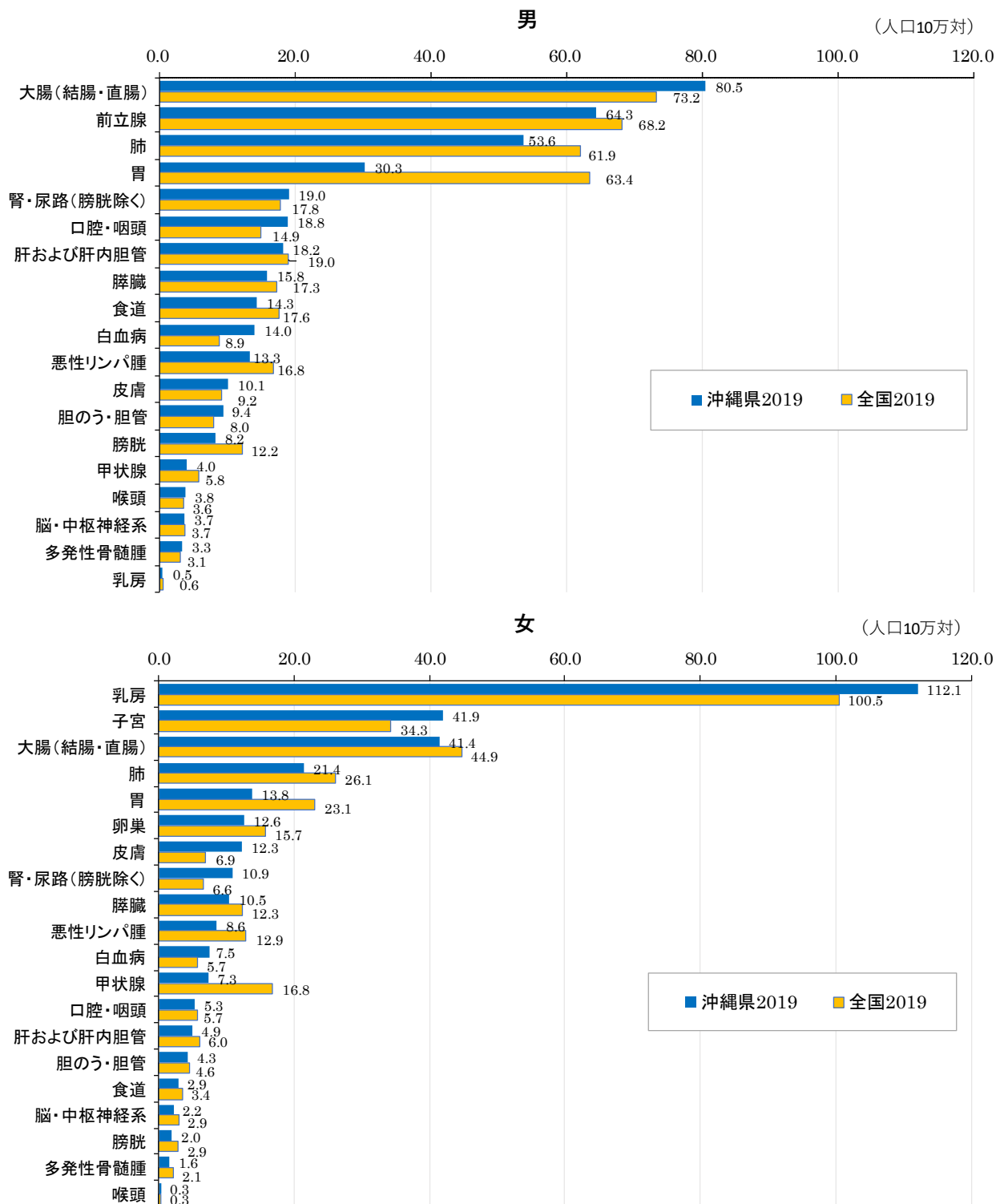
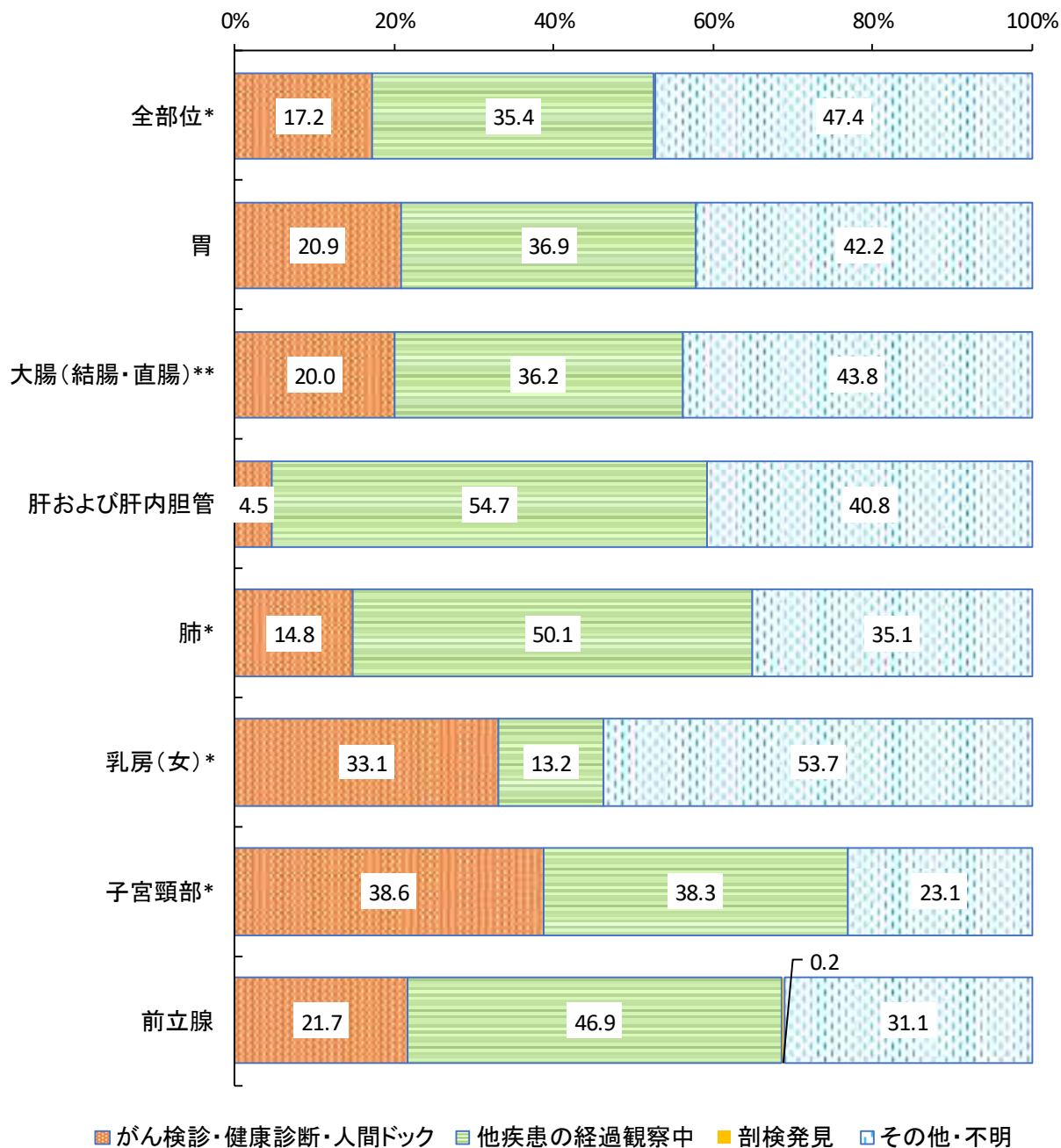


図 6 年齢調整罹患率:人口 10 万対、部位別 (表 1-A から作成。上皮内がん除く)

4. 発見経緯

一般に検診が実施されている部位において、がん検診もしくは健康診断・人間ドックが発見の契機となった症例の割合は、子宮頸部で 38.6%と最も高く、他疾患の経過観察中の発見となった症例の割合は、肝および肝内胆管が 54.7%と最も高い(図 7)。

その他・不明が多い理由として、患者による有訴受診(疼痛、出血などにより医療機関を受診)によるものの他、がん検診等の際に診断した医療機関からの届出ではなく、紹介先の治療機関からの届出が多いことが推測される。



*上皮内がんを含む ** 粘膜がんを含む

図 7 発見経緯(%): 部位別 (表 4-A、表 4-B から作成。DCO を除く)

5. 発見時の進展度

胃、大腸(結腸・直腸)、乳房、子宮、前立腺など、一般的にがん検診が実施されている部位においては、発見時の進展度が上皮内がん、限局がんの割合が高い。一方、肺は、がん検診が実施されている部位ではあるが、遠隔転移(41.7%)が、限局がん(32.6%)より高い結果となった。胆のう・胆管、膵臓は、発見時に進行している割合が高くなっている(図 8)。

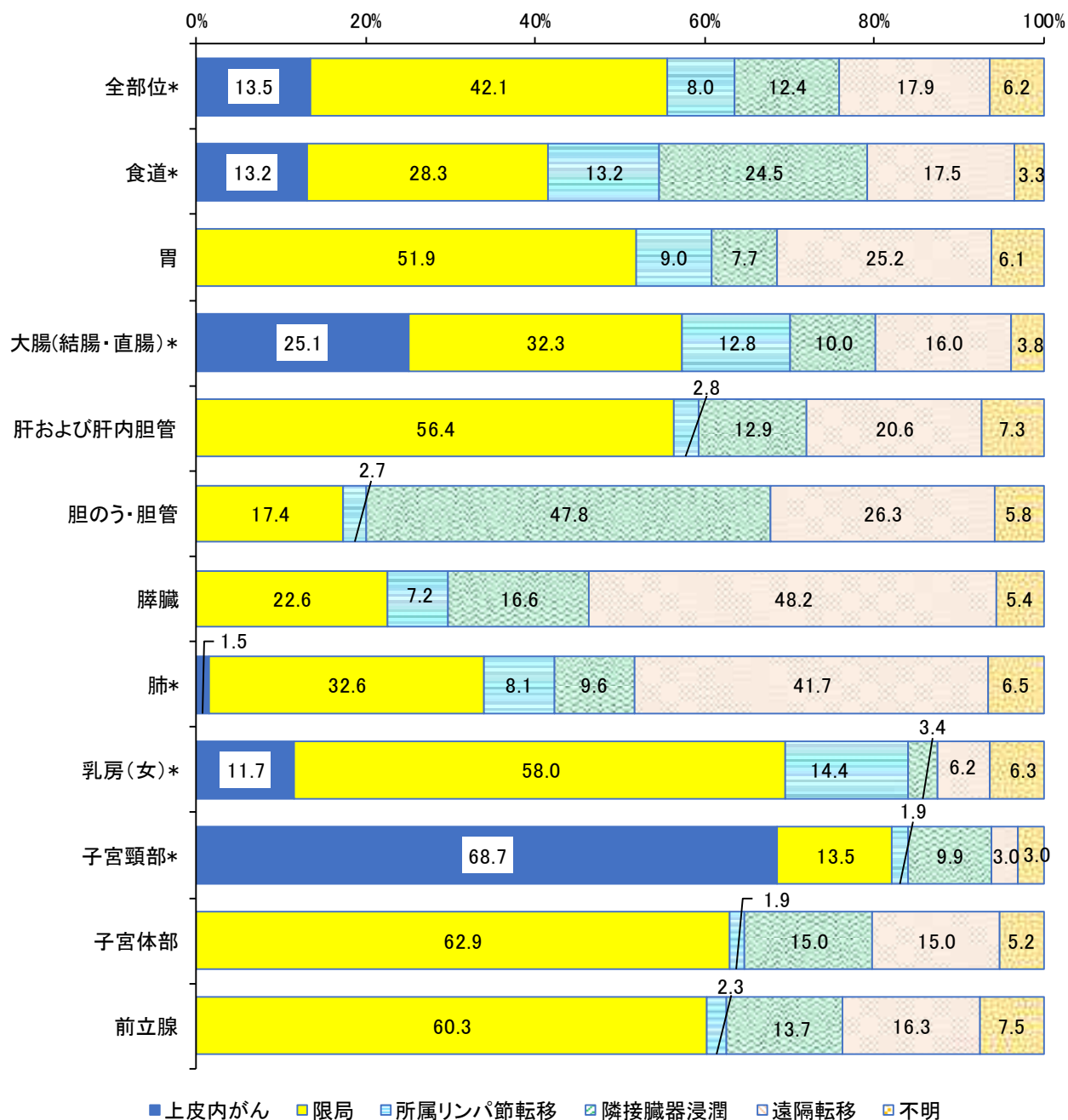


図 8 発見時の進展度(%):部位別(表 5-1-A、表 5-1-B から作成)

*上皮内がんを含む。結腸・直腸の上皮内は、粘膜がんまでを指す。

子宮頸部の上皮内は、CIN3を含む。DCO および進展度 777 該当せずを除く。

6. 発見経緯別の進展度

一般的にがん検診が実施されている部位について、発見経緯を検診(がん検診、健診・人間ドック)と検診以外(他疾患の経過観察中、剖検発見、その他・不明(症状受診を含む))に分けて進展度をみると、検診で発見された場合は、検診以外で発見された場合と比べて上皮内がん及び限局がんの割合が高くなっている(図 9)。

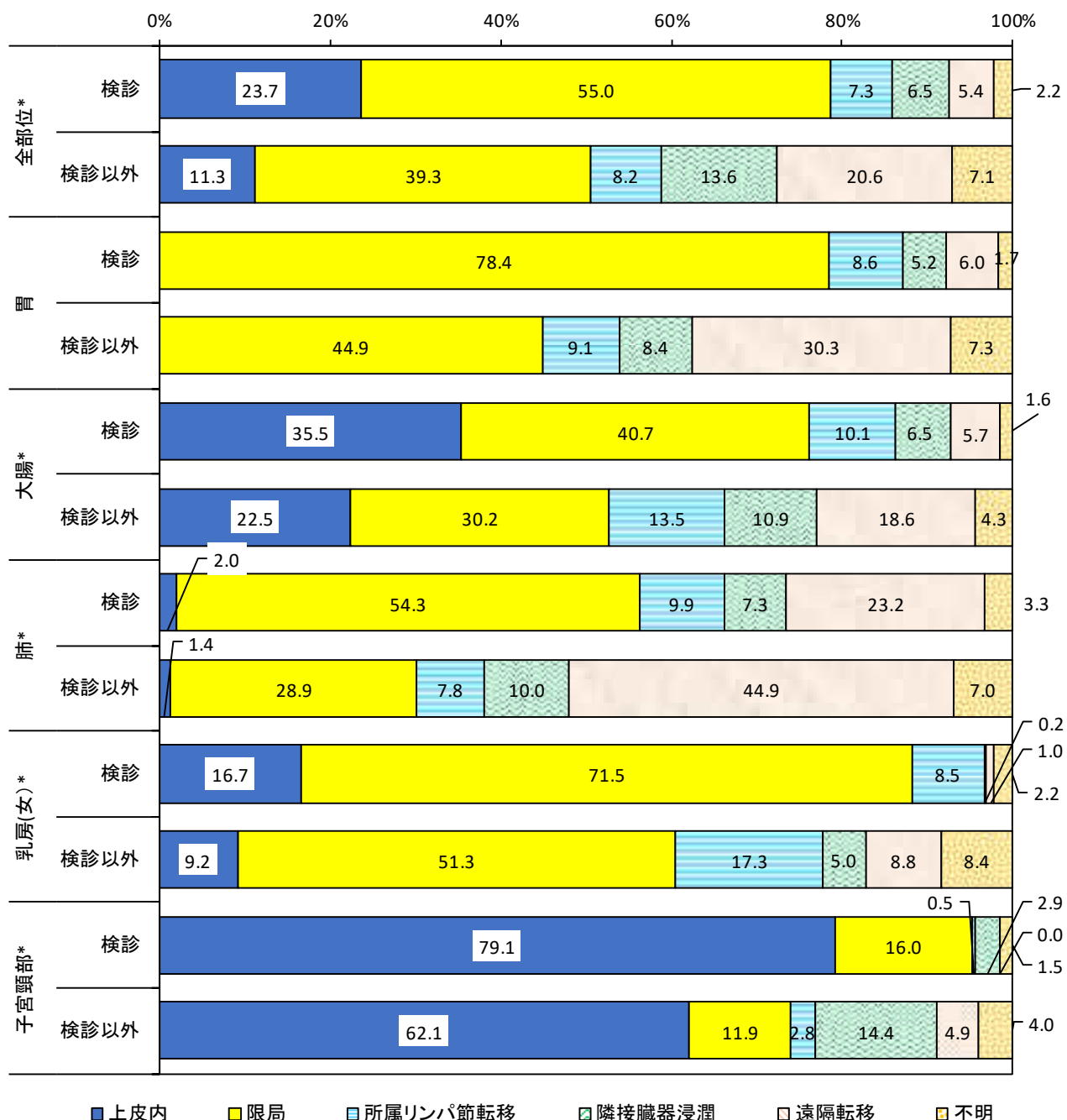


図 9 発見経緯別の進展度(%):部位別(表 5-1-C から作成)

検診:がん検診、健診・人間ドック

検診以外:他疾患の経過観察中、剖検発見、その他・不明(症状受診を含む)

*上皮内がんを含む。大腸の上皮内には粘膜がんを含む。子宮頸部の上皮内は、CIN3を含む。

DCO および進展度 777 該当せずを除く。

7. 初回治療の方法

初回治療のうち、観血的治療の割合が60%を超える部位は、結腸、直腸、子宮体部、乳房(女性のみ)、子宮頸部、胃であった。

放射線療法では口腔・咽頭、食道が、薬剤では乳房と前立腺が、他部位に比べ割合が高くなっている(図10-1)。

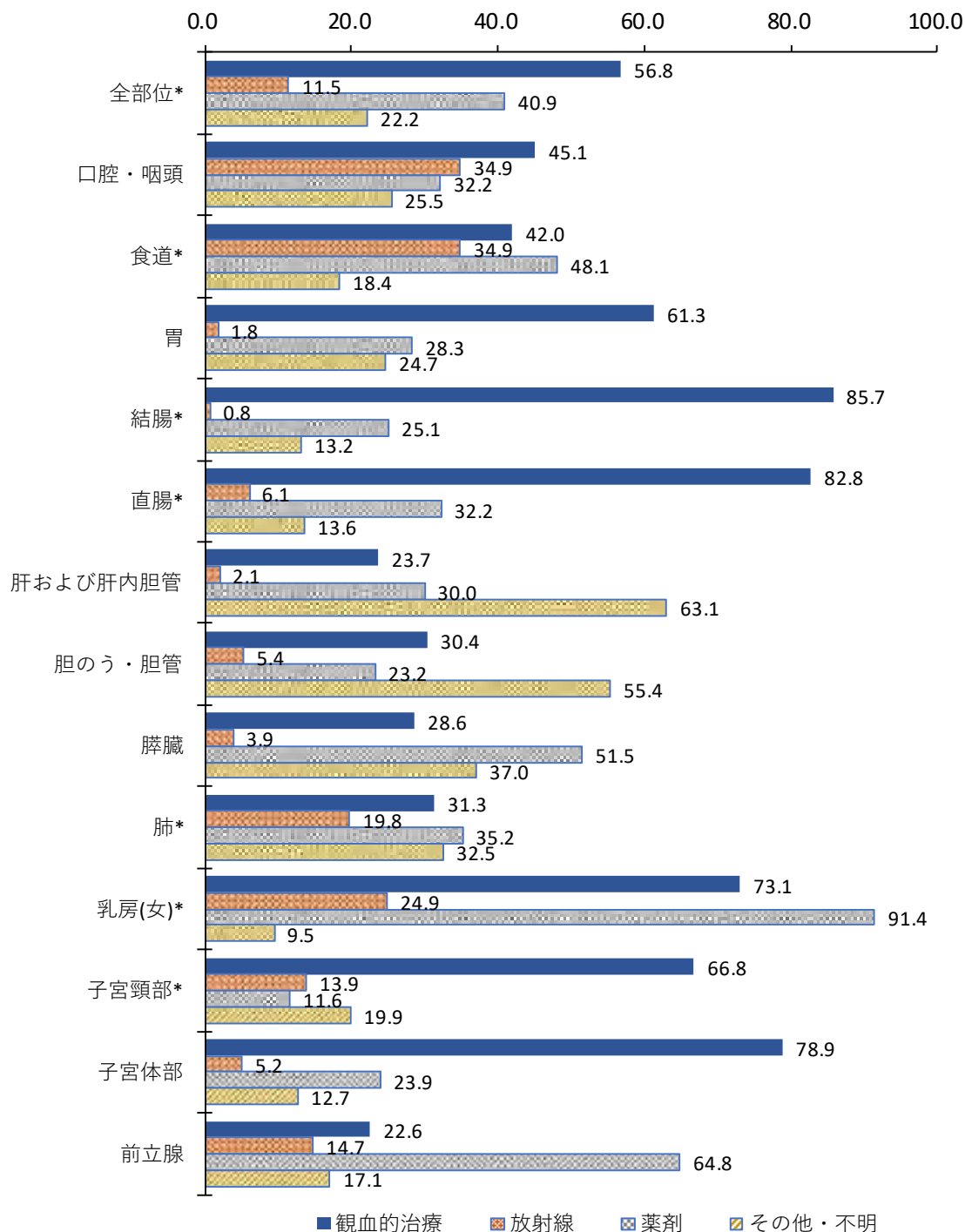


図10-1 初回治療の方法(%): 部位別(表6-A、表6-Bから作成)

*上皮内がんを含む

※観血的治療は、外科的、鏡視下、内視鏡的治療を含む。薬剤は、化学療法、内分泌療法を含む。

※DCOを除く

※重複を含むため、合計は100%にならない

観血的治療の割合を詳細にみると、外科的治療を選択する割合は乳房(女性のみ)、子宮体部、子宮頸部、口腔・咽頭の順に高かった(図 10-2)。

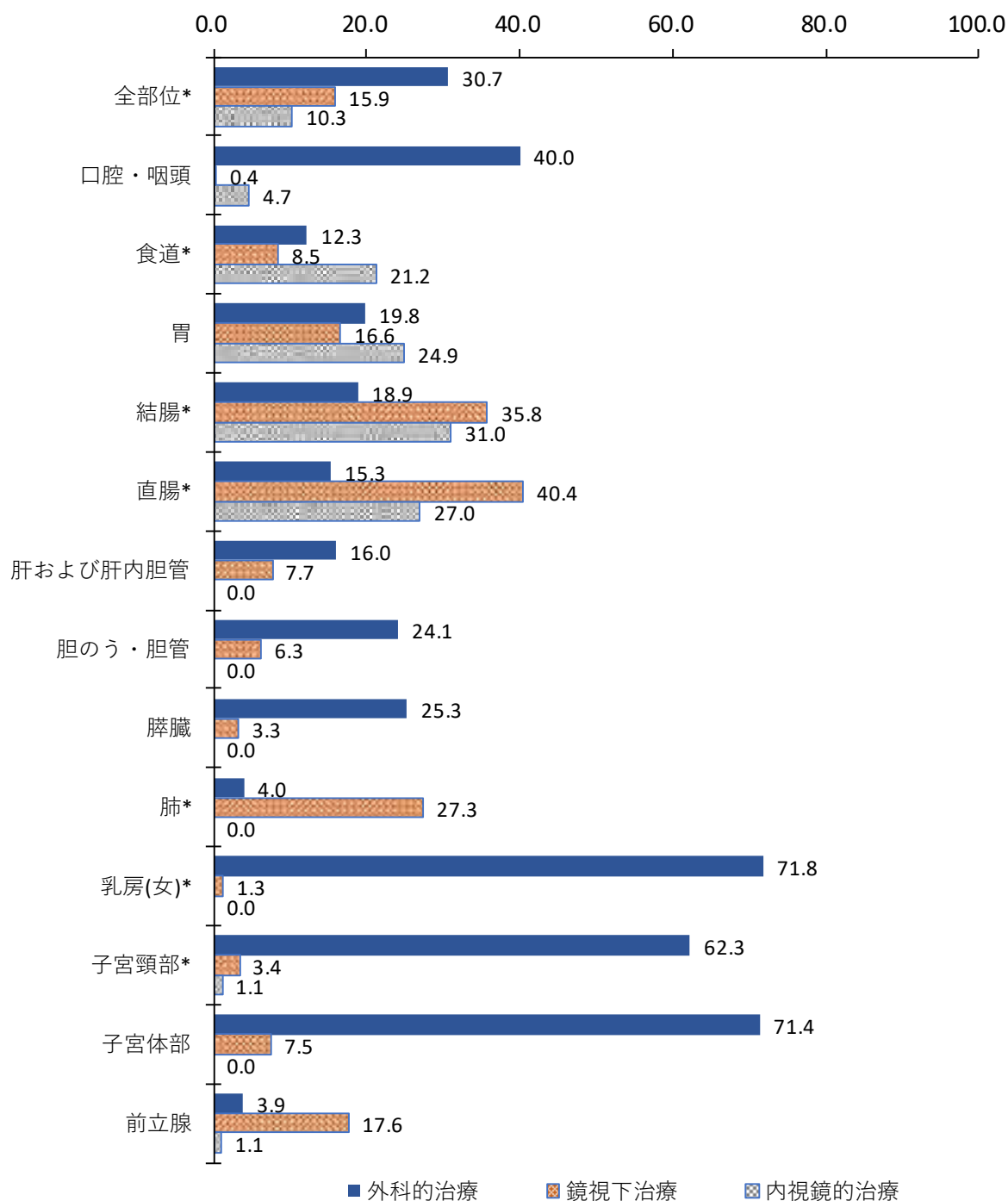


図 10-2 初回治療(観血的治療)の方法(%):部位別(表 6-A、表 6-B から作成)

*上皮内がんを含む

※DCOを除く

※重複を含むため、合計は100%にならない

8. がん死亡（死亡数、部位割合）

2019年の沖縄県におけるがん死亡数は、男性 1,976 名、女性 1,295 名、合計 3,271 名であった。本県における、死亡数上位 10 部位およびその他部位について、部位割合 (%) を示した(図 11)。

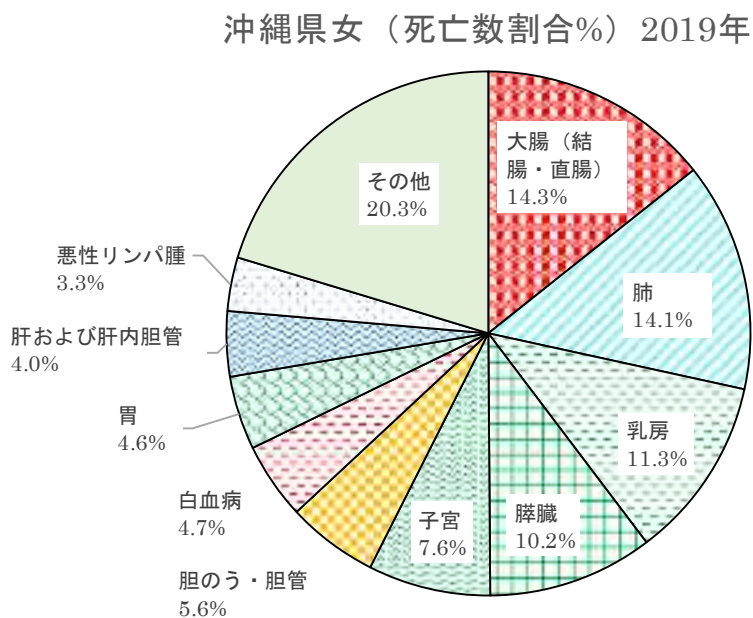
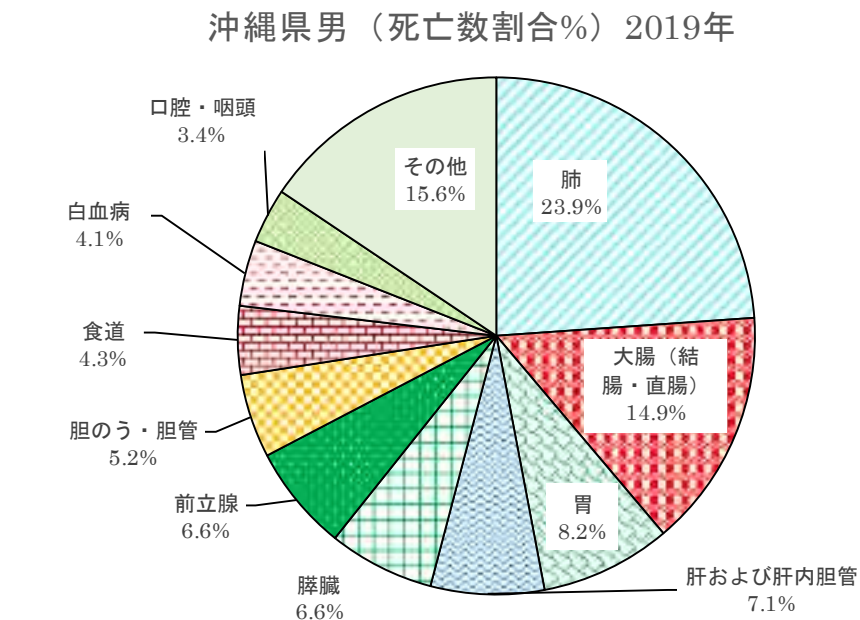


図 11 部位割合 (%) (表 9 から作成。沖縄県)

9. がん死亡（年齢階級別死亡数、年齢階級別死亡率）

2019年の年齢階級別死亡数の割合は、64歳以下の占める割合が、沖縄県では男性19.3%、女性22.6%、全国では男性11.7%、女性14.1%であり、男女ともに沖縄県が高くなっている（年齢不詳を除く。図12）。

高齢になるに伴い、多くの部位で年齢階級別死亡数及び死亡率ともに値が高くなるが、女性では乳房、子宮、卵巣は、他部位に比べ、低い年齢層からの死亡率上昇がみられた（図13-1、13-2）。

		14歳以下 (小児)	15-39歳 (AYA世代)	40-64歳	65-74歳	75-84歳	85歳以上	合計	小児・ AYA世代 (再掲)
沖縄県 2019	男	3 (0.2%)	14 (0.7%)	364 (18.4%)	540 (27.3%)	589 (29.8%)	466 (23.6%)	1,976 (100.0%)	17 (0.9%)
	女	0 (0.0%)	11 (0.8%)	282 (21.8%)	246 (19.0%)	350 (27.0%)	406 (31.4%)	1,295 (100.0%)	11 (0.8%)
全国 2019	男	151 (0.1%)	911 (0.4%)	24,730 (11.2%)	60,019 (27.2%)	81,518 (37.0%)	53,000 (24.1%)	220,329 (100.0%)	1,062 (0.5%)
	女	106 (0.1%)	1,222 (0.8%)	20,527 (13.2%)	30,088 (19.3%)	47,746 (30.6%)	56,393 (36.1%)	156,082 (100.0%)	1,328 (0.9%)

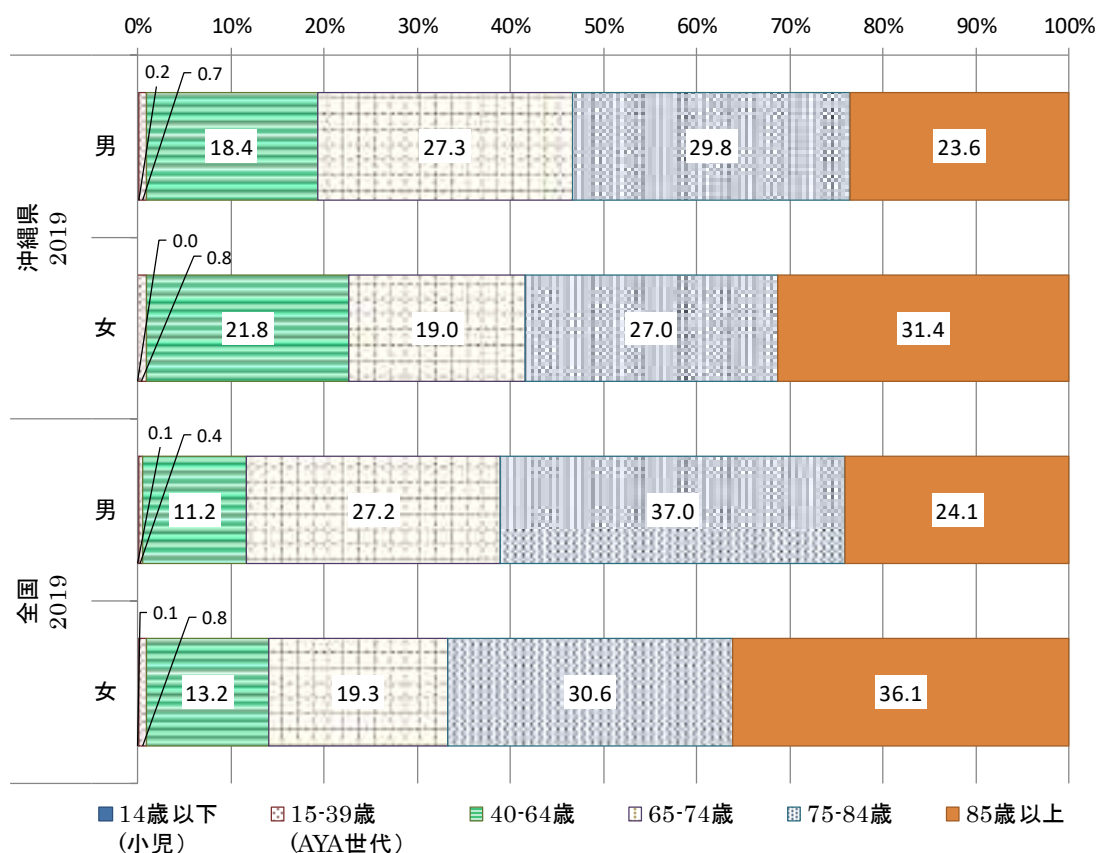


図12 年齢階級別死亡数割合(%) (表10から作成。年齢不詳を除く。)

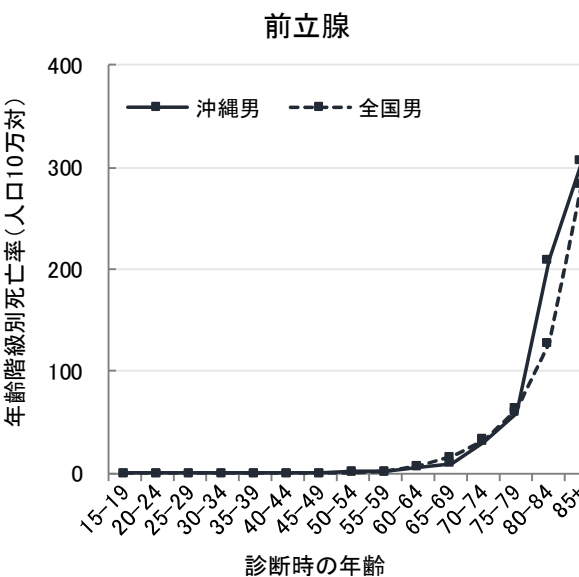
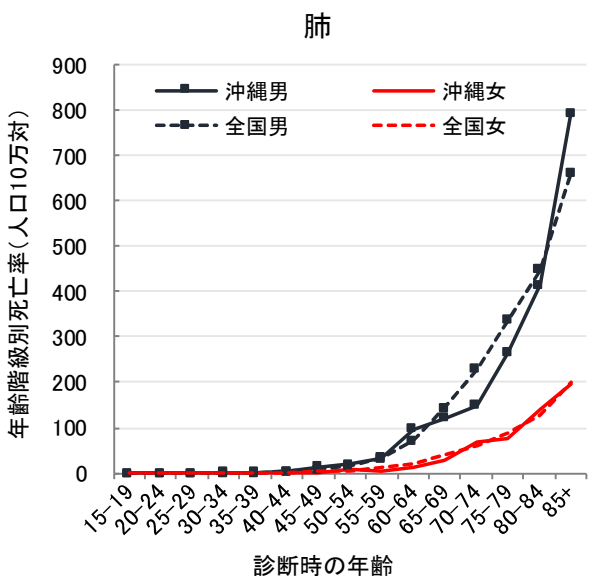
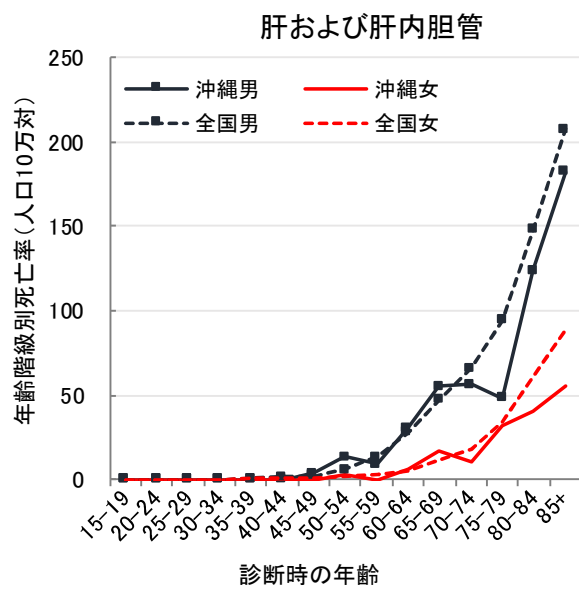
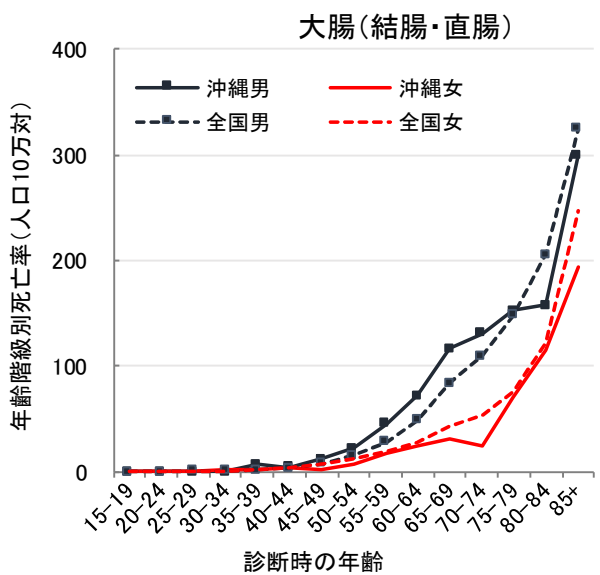
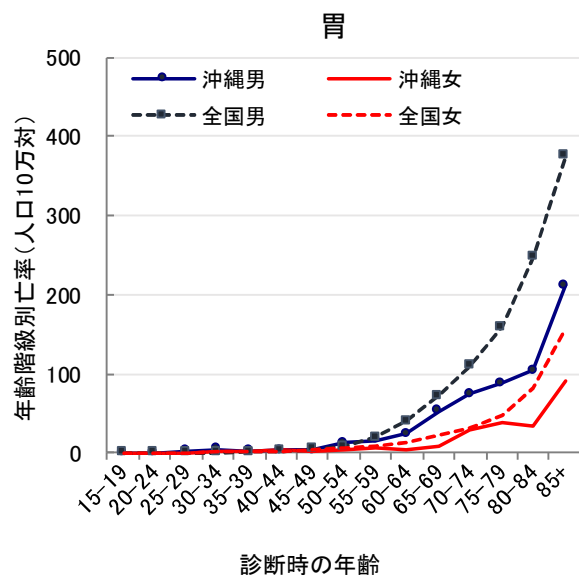
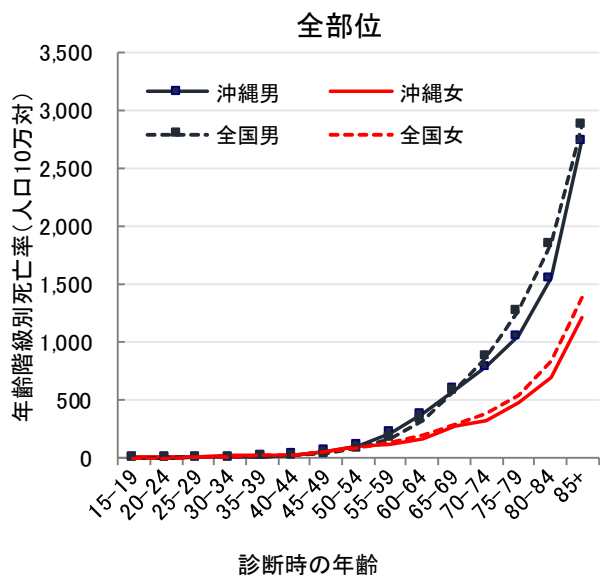


図 13-1 年齢階級別死亡率:人口 10 万対(表 11-2 から作成。年齢不詳を除く。)

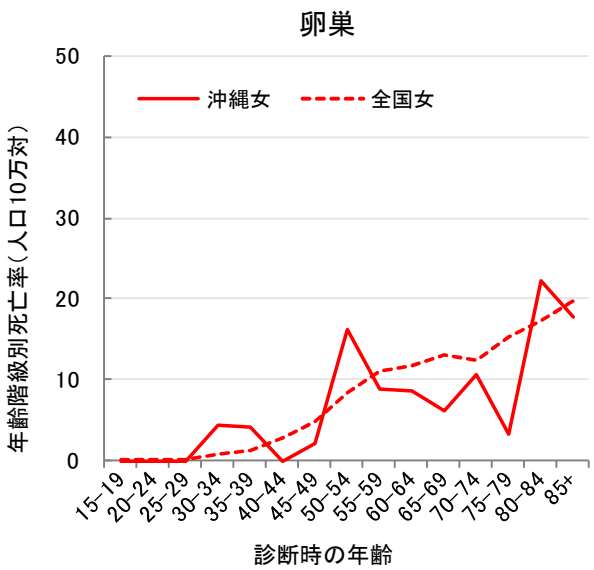
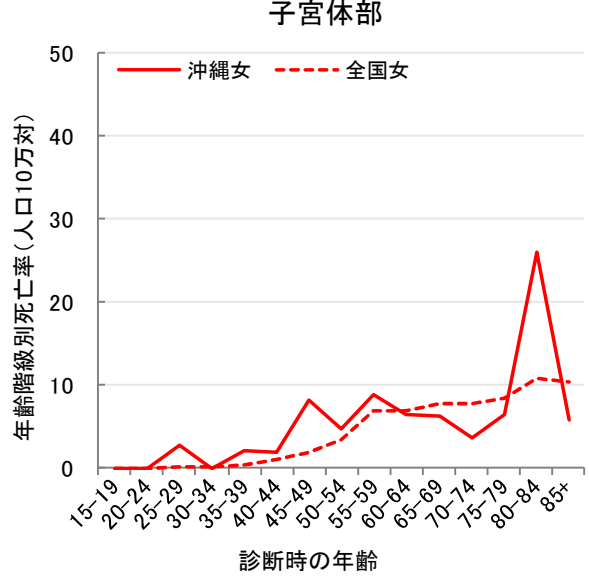
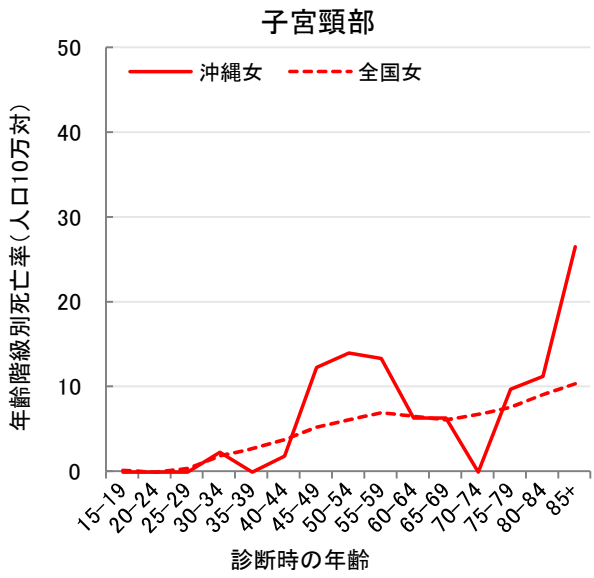
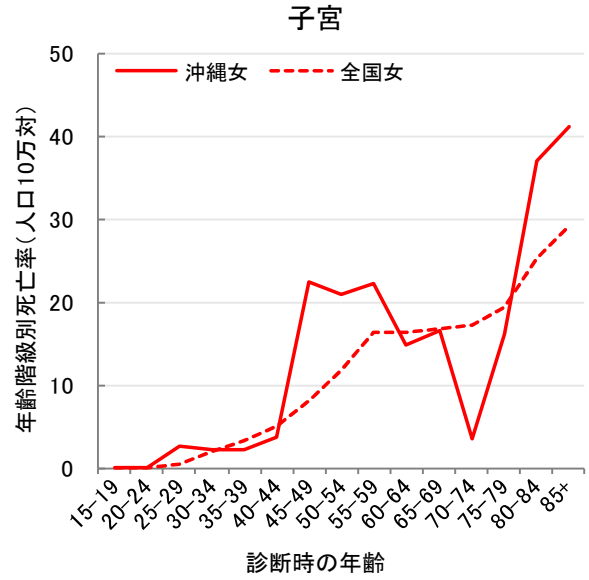
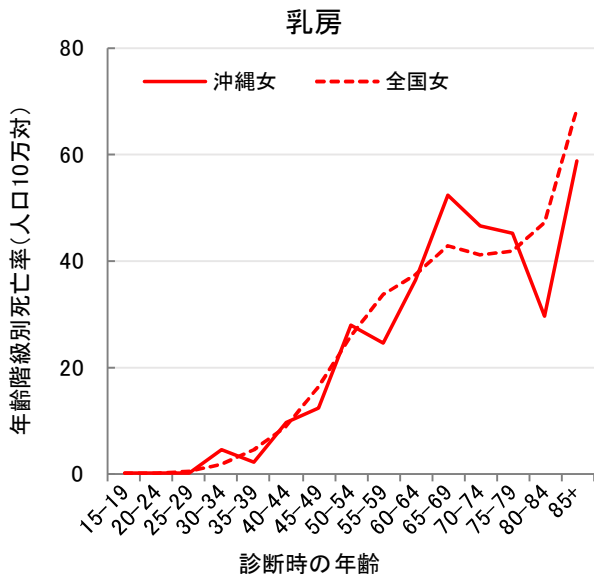


図 13-2 年齢階級別死亡率 :人口 10 万対(表 11-2 から作成。年齢不詳を除く。)

10. がん死亡(年齢調整死亡率)

2019年の沖縄県の年齢調整死亡率は上位10部位をみると、男性は大腸(結腸・直腸)、前立腺、胆のう・胆管、白血病、口腔・咽頭が、女性は乳房、子宮、白血病、胆のう・胆管が全国と比較してより高い値であった(図14)。

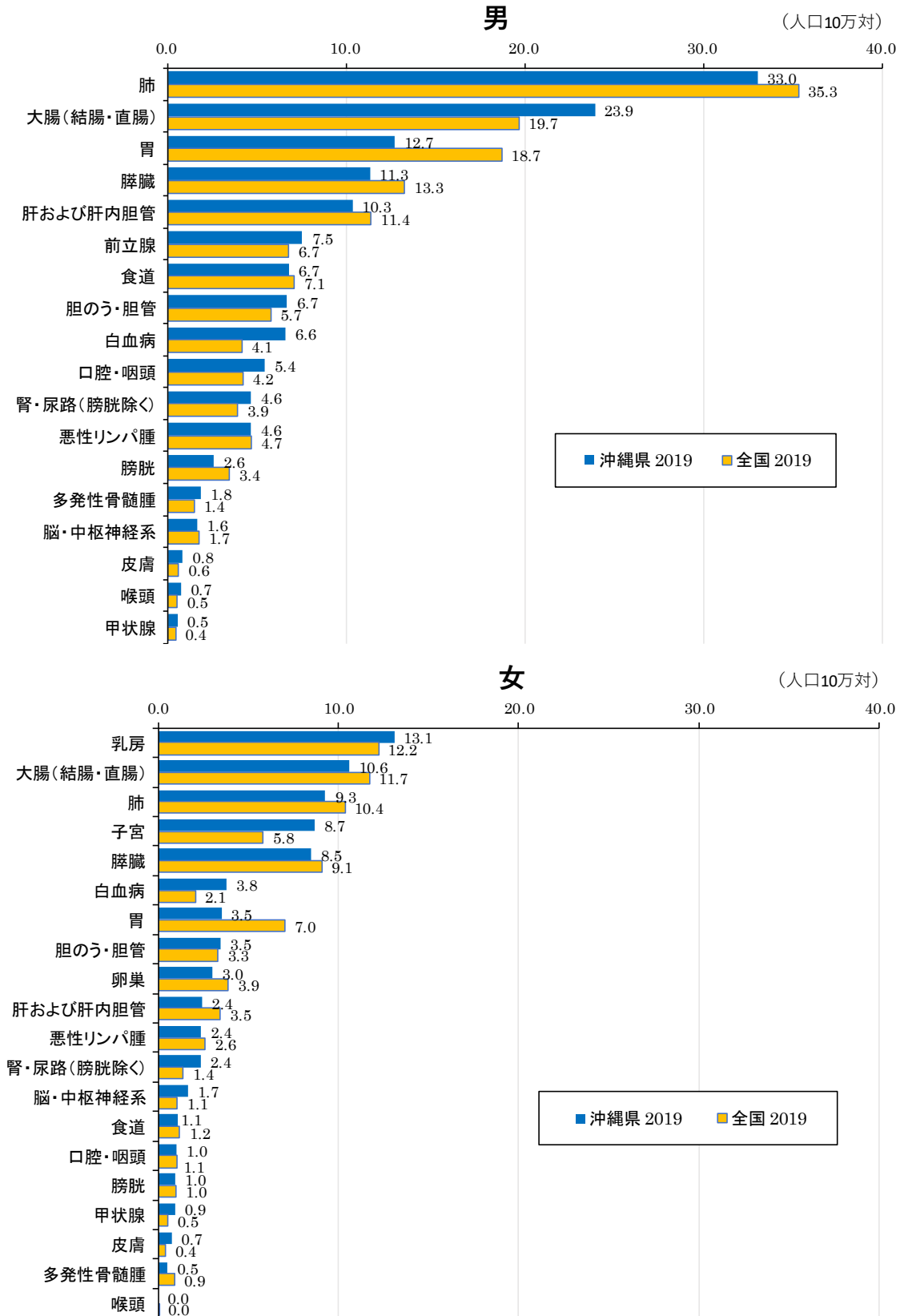
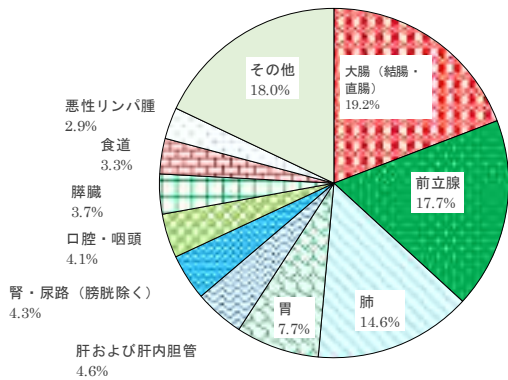
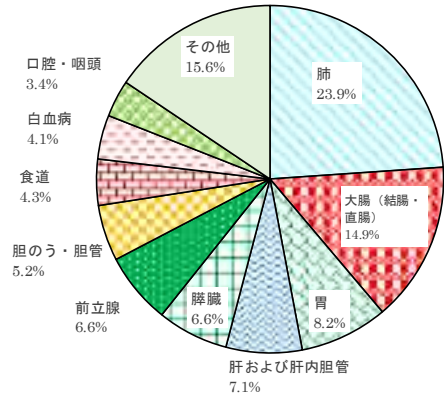


図14 年齢調整死亡率:人口10万対、部位別 (表9から作成)

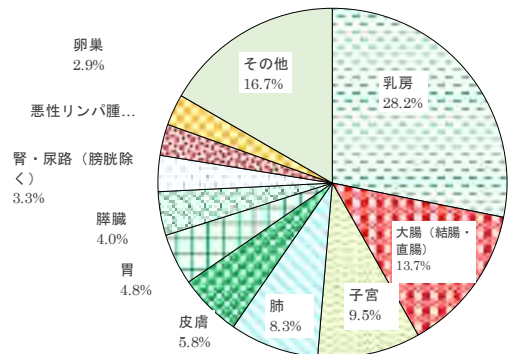
沖縄県男（罹患数割合）2019年



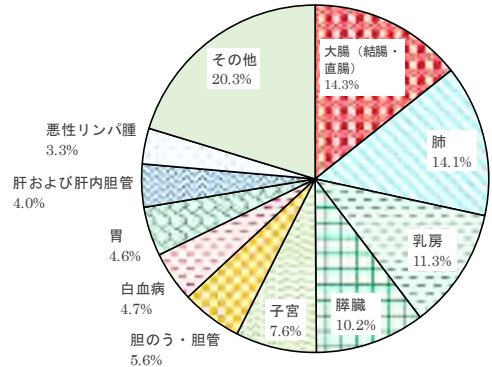
沖縄県男（死亡数割合）2019年



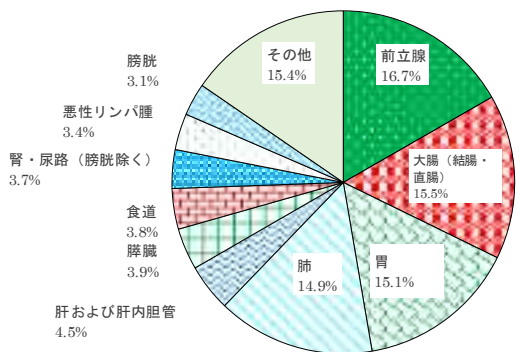
沖縄県女（罹患数割合）2019年



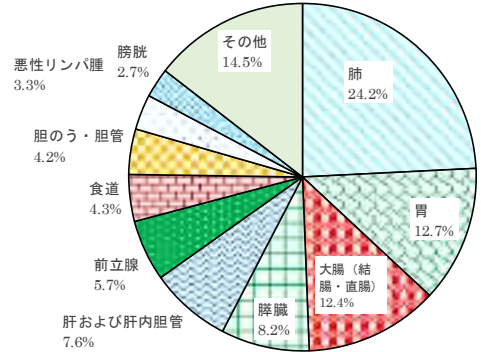
沖縄県女（死亡数割合）2019年



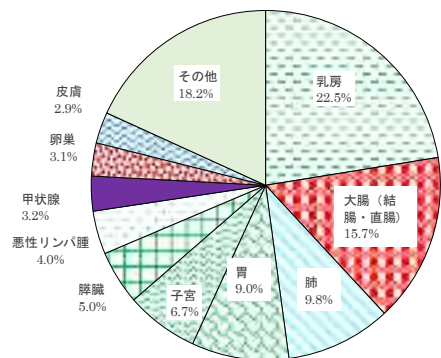
全国男（罹患数割合）2019年



全国男（死亡数割合）2019年



全国女（罹患数割合）2019年



全国女（死亡数割合）2019年

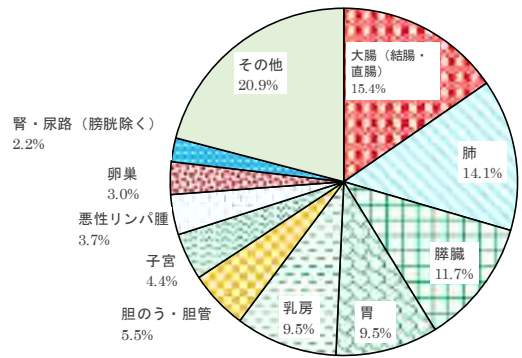


図 15 罹患数割合(%)および死亡数割合(%):部位別、性別 (上皮内がんを除く。沖縄県および全国) (図 2、図 11 を再掲。)

Ⅲ 統計編 年次推移

1. 年次推移（罹患数）

2010～2019年までの罹患数（上皮内がんを除く）について、男性上位5部位（大腸（結腸・直腸）、前立腺、肺、胃、肝および肝内胆管）は順位に変動があるものの、2010年から変わらない状況である。女性上位6部位（乳房、大腸（結腸・直腸）、子宮、肺、皮膚、胃）は、順位に変動があるものの、2010年から変わらない状況である（図16）。

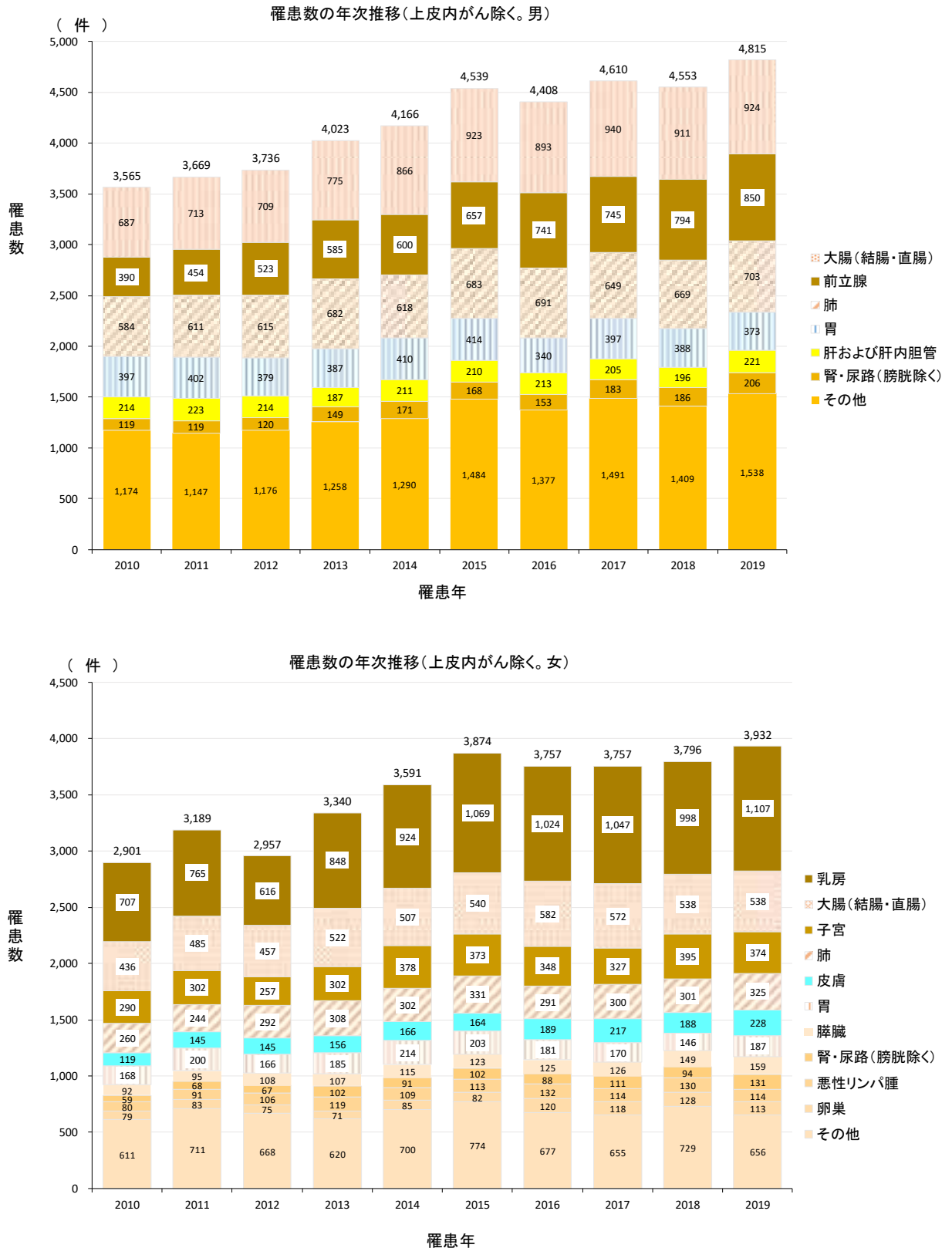


図16 罹患数（主ながん）の年次推移（年次推移表 1-A から作成）

2. 年次推移（年齢調整罹患率）

2019年症例年齢調整罹患率について、男性上位5部位(大腸(結腸・直腸)、前立腺、肺、胃、腎・尿路(膀胱除く)、女性上位7部位(乳房、子宮、大腸(結腸・直腸)、肺、胃、卵巣、皮膚)の年次推移(2010～2019年)を示した(図17)。

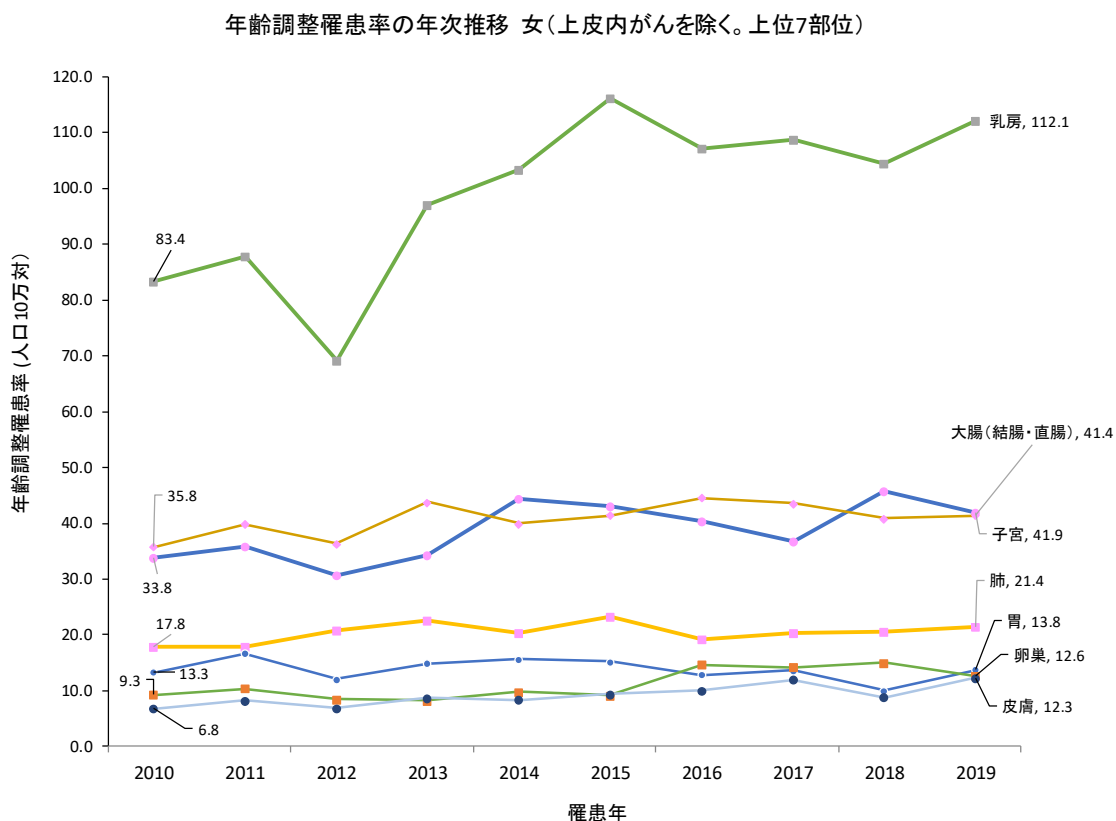
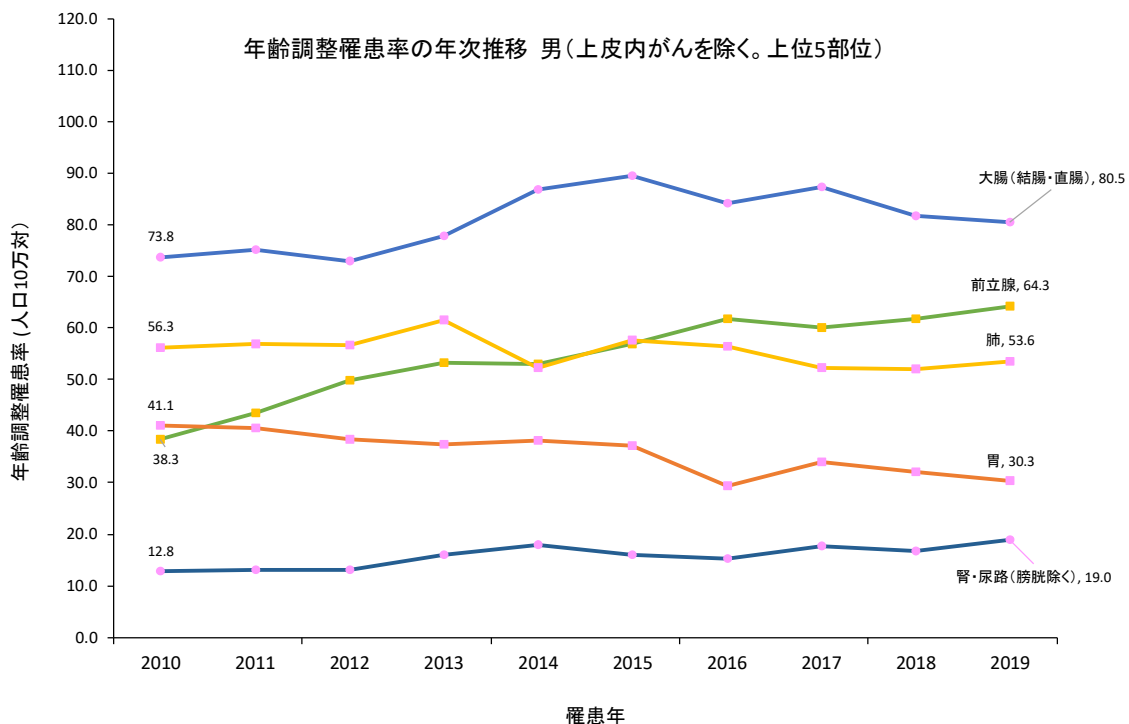


図17 年齢調整罹患率(年次推移表1-Aから作成)

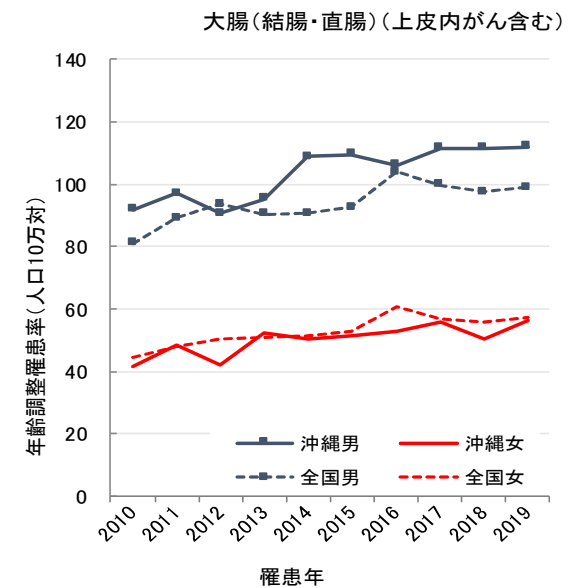
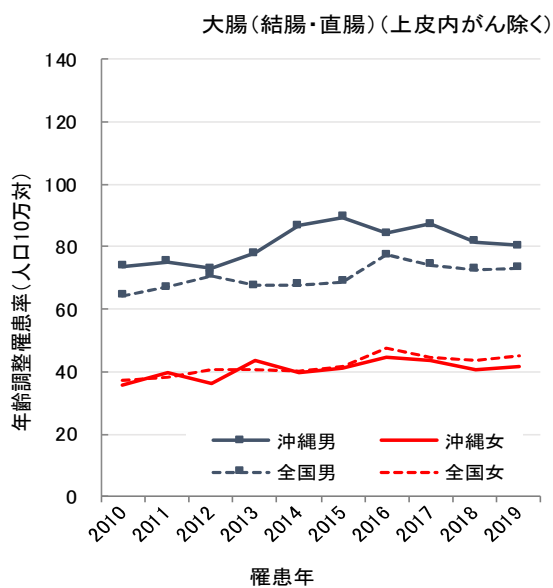
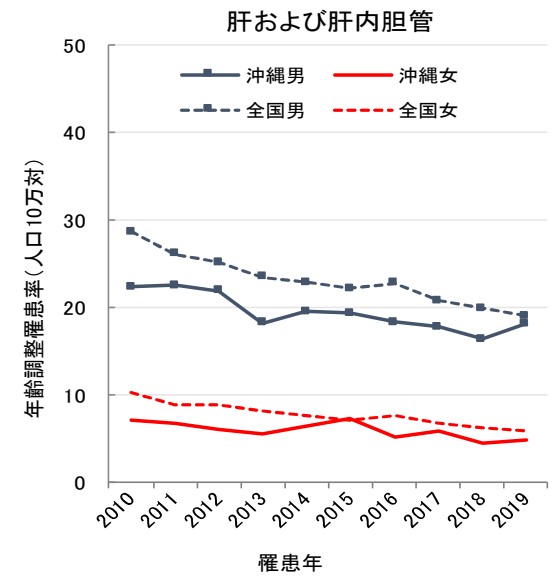
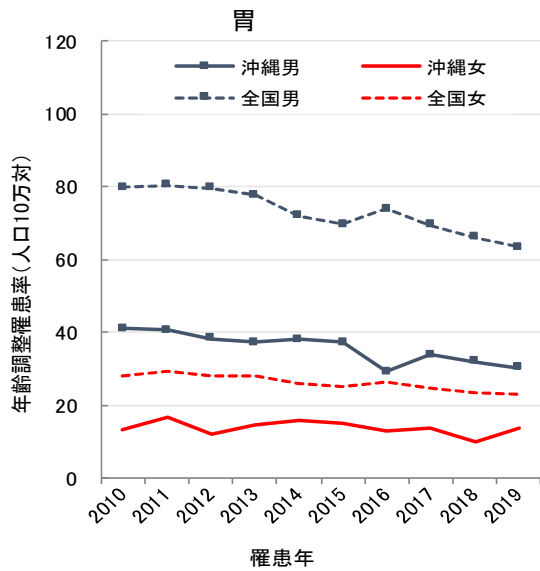
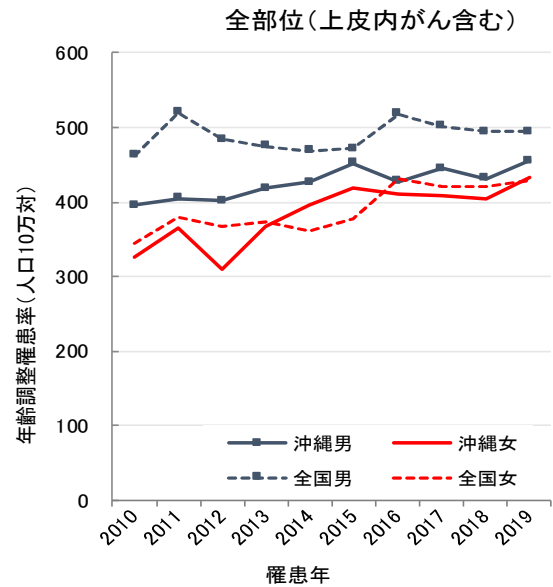
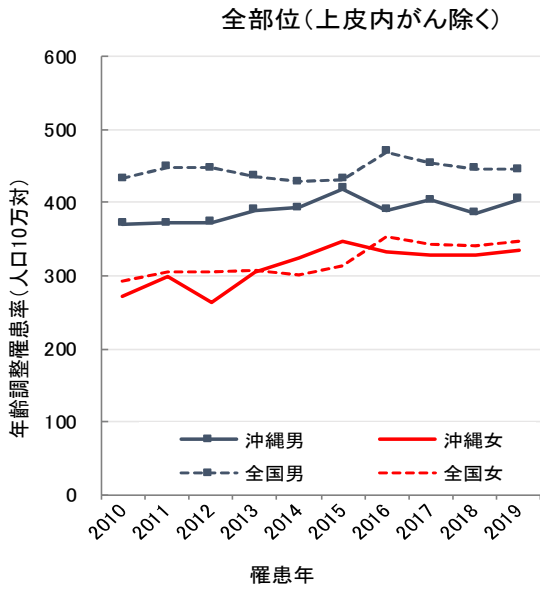


図 18-1 年齢調整罹患率(年次推移表 1-A、年次推移表 1-B から作成)

※全国値は 2010~2013 年地域がん登録全国推計によるがん罹患データ、2014~2015 年地域がん登録全国合計値

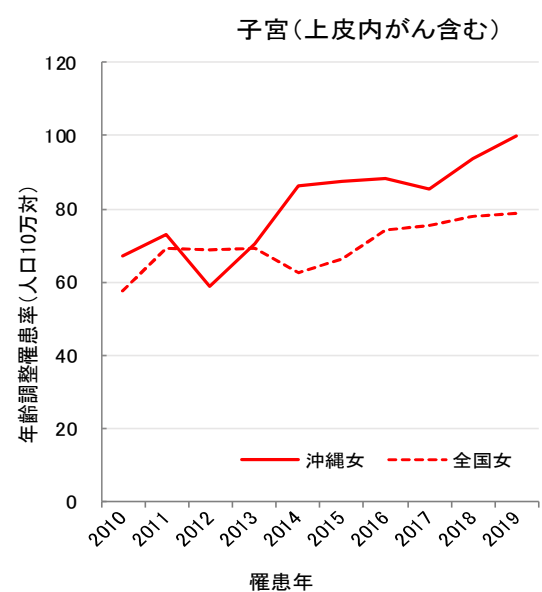
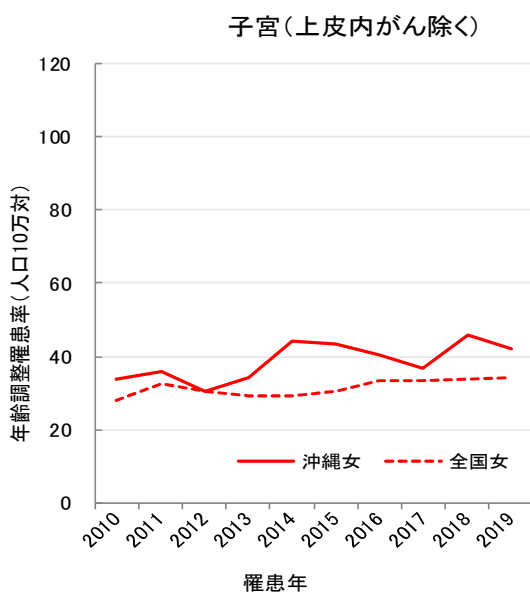
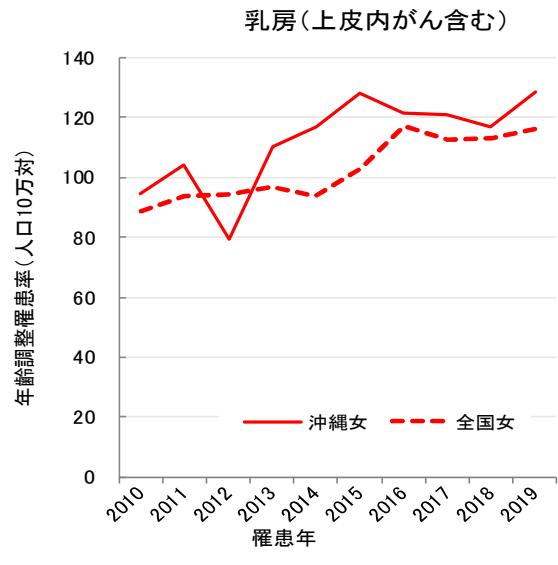
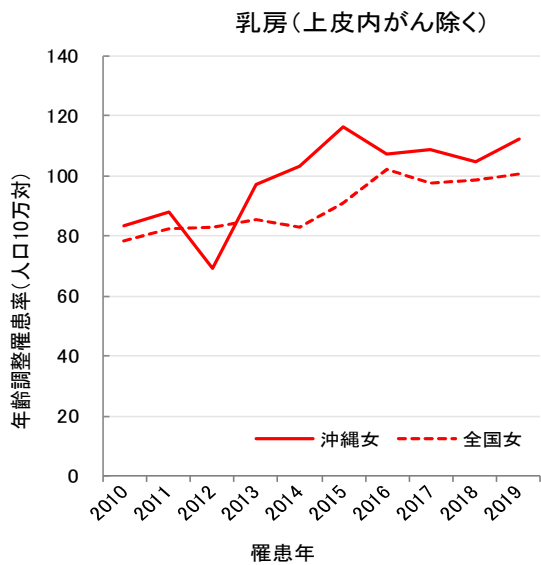
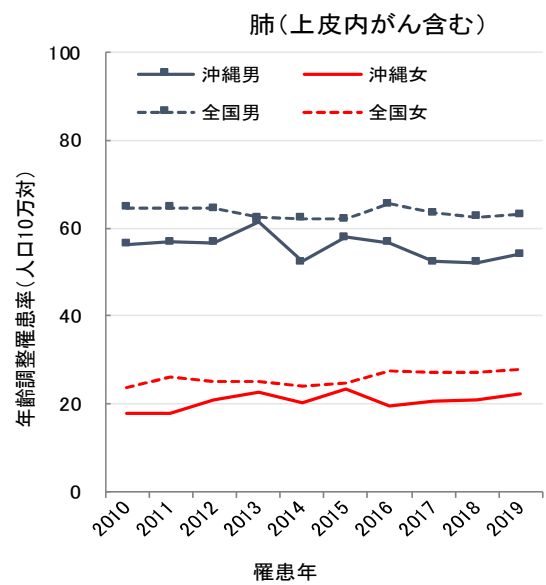
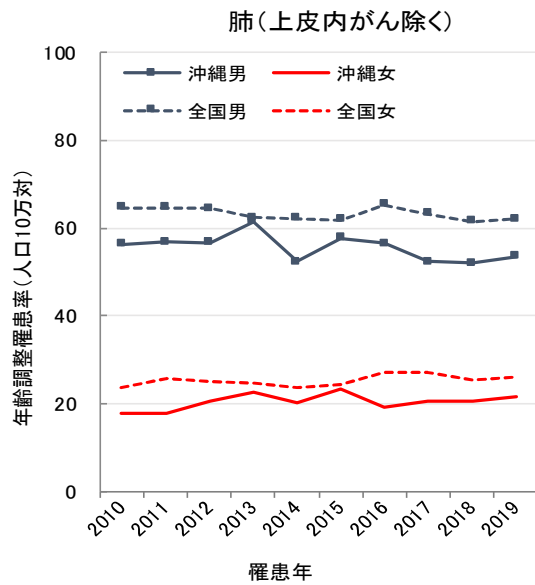


図 18-2 年齢調整罹患率(年次推移表 1-A、年次推移表 1-B から作成)

※全国値は 2010~2013 年地域がん登録全国推計によるがん罹患データ、2014~2015 年地域がん登録全国合計値

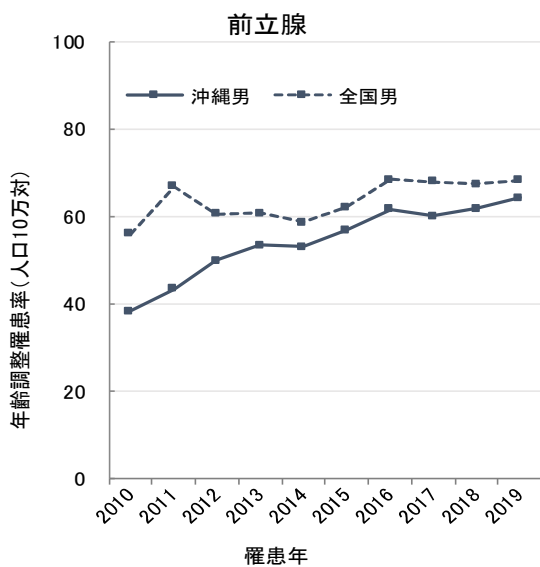
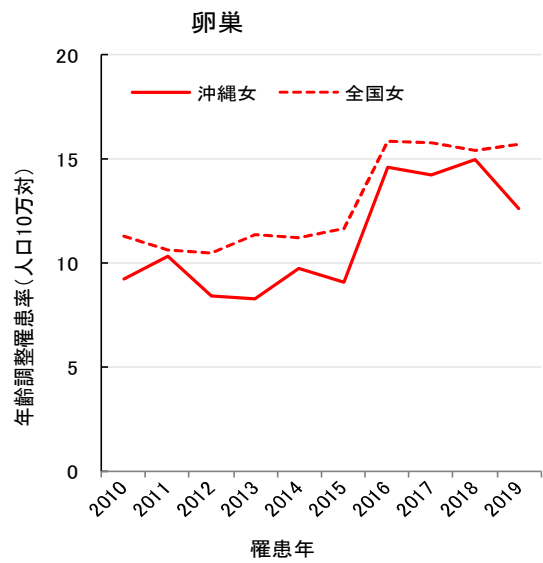
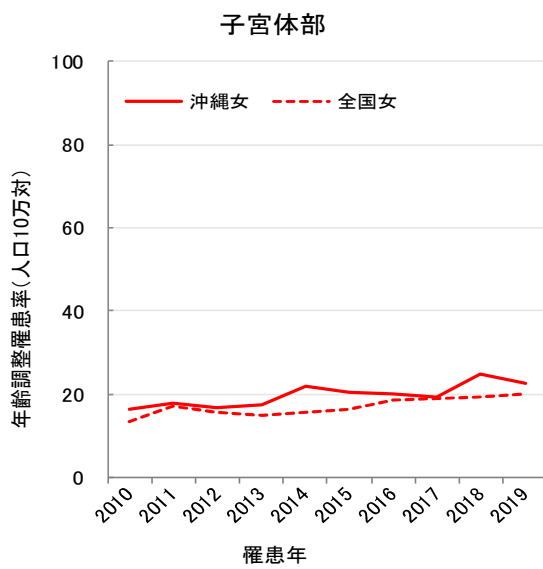
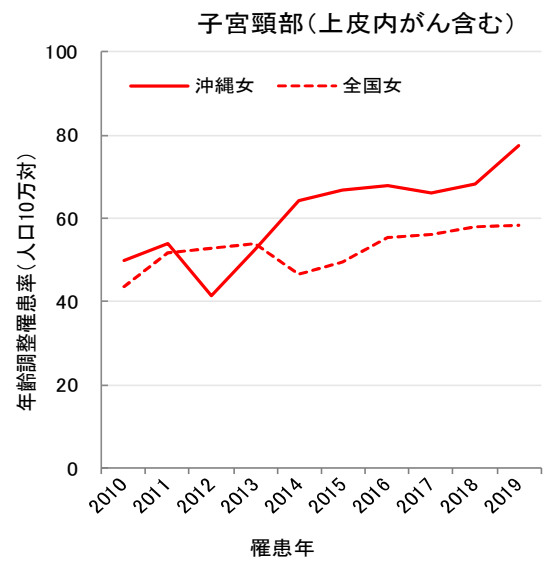
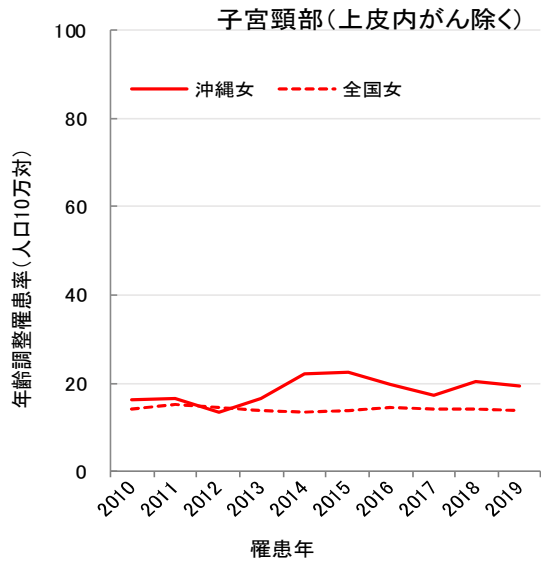


図 18-3 年齢調整罹患率(年次推移表 1-A、年次推移表 1-B から作成)

※全国値は 2010~2013 年地域がん登録全国推計によるがん罹患データ、2014~2015 年地域がん登録全国合計値

3. 年次推移（年齢調整罹患率と年齢調整死亡率の比較）

2010年から2019年の部位別年齢調整罹患率と年齢調整死亡率の推移を比較した。

今後、がん検診等による早期発見・早期受診の促進や治療効果の向上が、罹患率と死亡率の相関に反映されていくものと思われる(図 19-1~図 19-7)。

なお、2012年までは固定データとして都道府県 DBS へ移行している都合上、2012年と2013年のデータは連続していない。2012年以前のデータは参考とされたい。

※データ出典

(沖縄)罹患:年次推移表 1-A、1-B、死亡:2010年症例以降の表 9 から作成

(全国)罹患:

2010年～ 2013年 地域がん登録全国推計による罹患データ(MCIJ2014)

2014年～ 2015年地域がん登録全国合計によるがん罹患データ

2016年～ 全国がん登録罹患数・率報告(厚生労働省健康局がん・疾病対策課)

死亡:人口動態統計によるがん死亡データ

※各グラフの ICD-10 局在

	罹患	死亡
全部位(上皮内がん含む)	C00-C96、D00-D09	C00-C97
胃	C16	C16
大腸(結腸・直腸)(上皮内がん含む)	C18-C20、D010-D012	C18-C20
肝および肝内胆管	C22	C22
肺(上皮内がん含む)	C33-C34、D021-D022	C33-C34
乳房_女(上皮内がん含む)	C50、D05	C50
子宮(上皮内がん含む)	C53-55、D06	C53-55
子宮頸部(上皮内がん含む)	C53、D06	C53

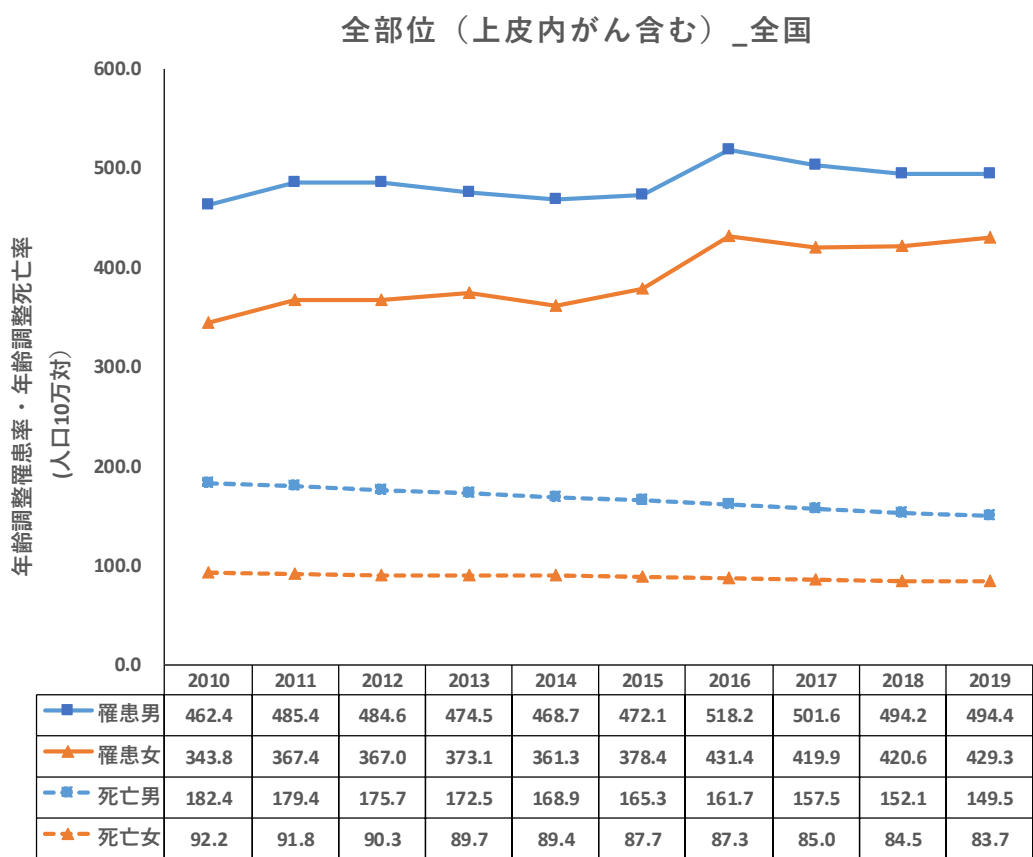
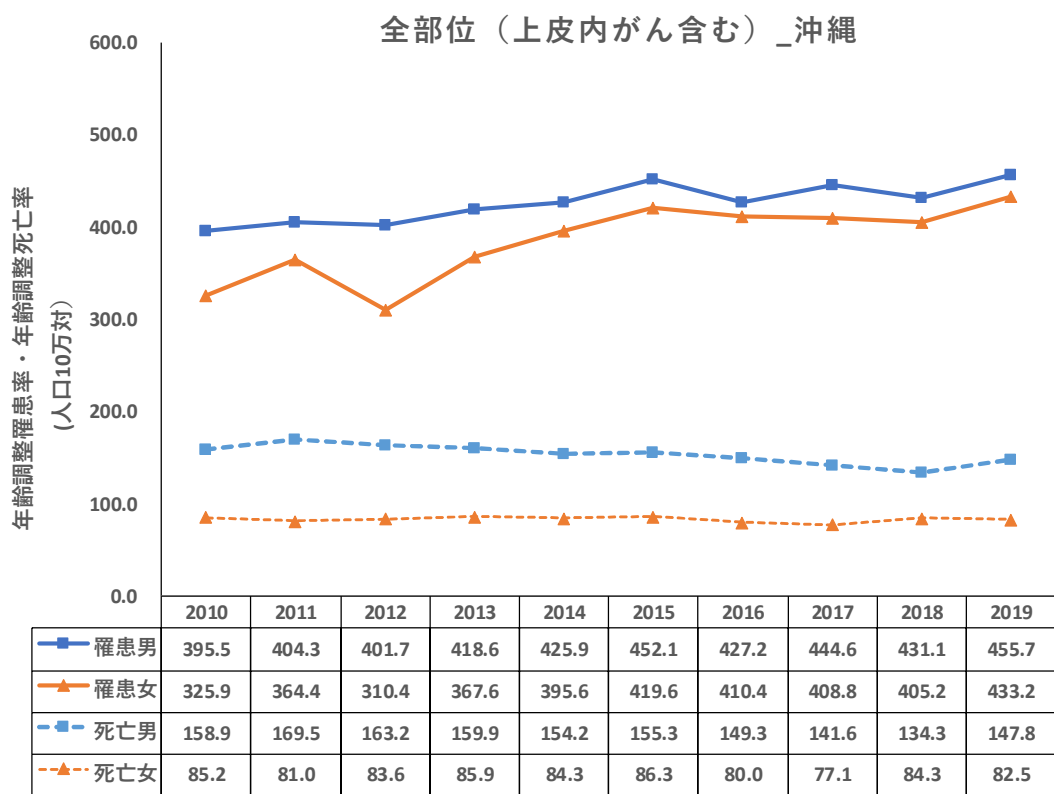
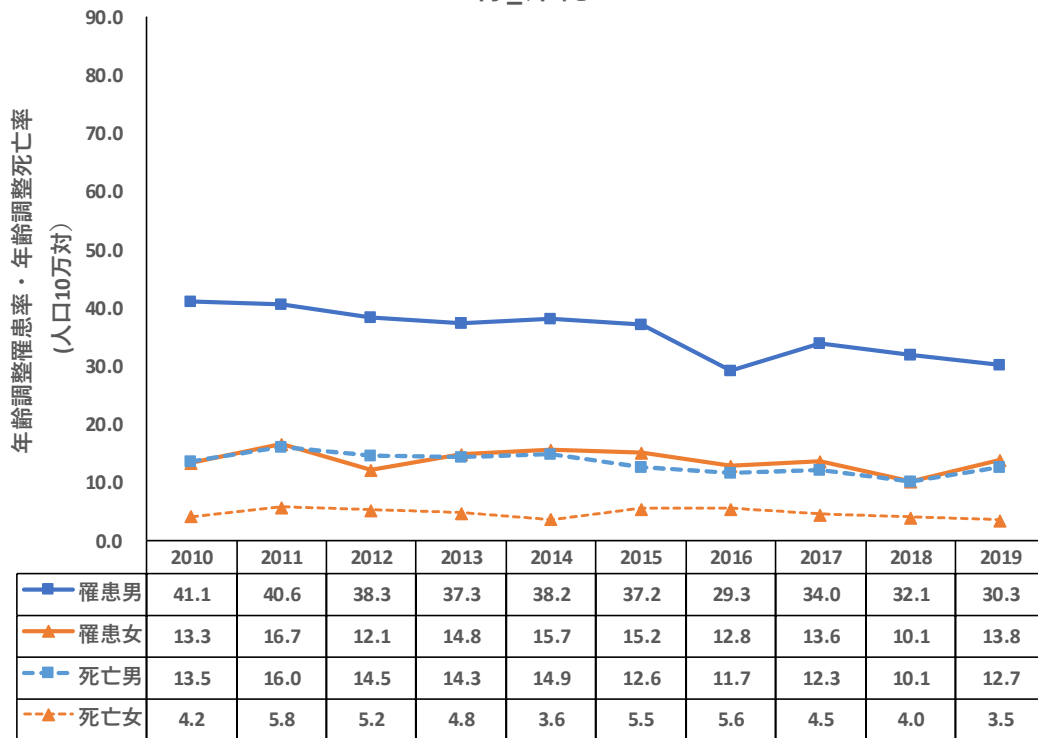


図 19-1 (全部位)年齢調整罹患率と年齢調整死亡率の年次推移

胃_沖縄



胃_全国

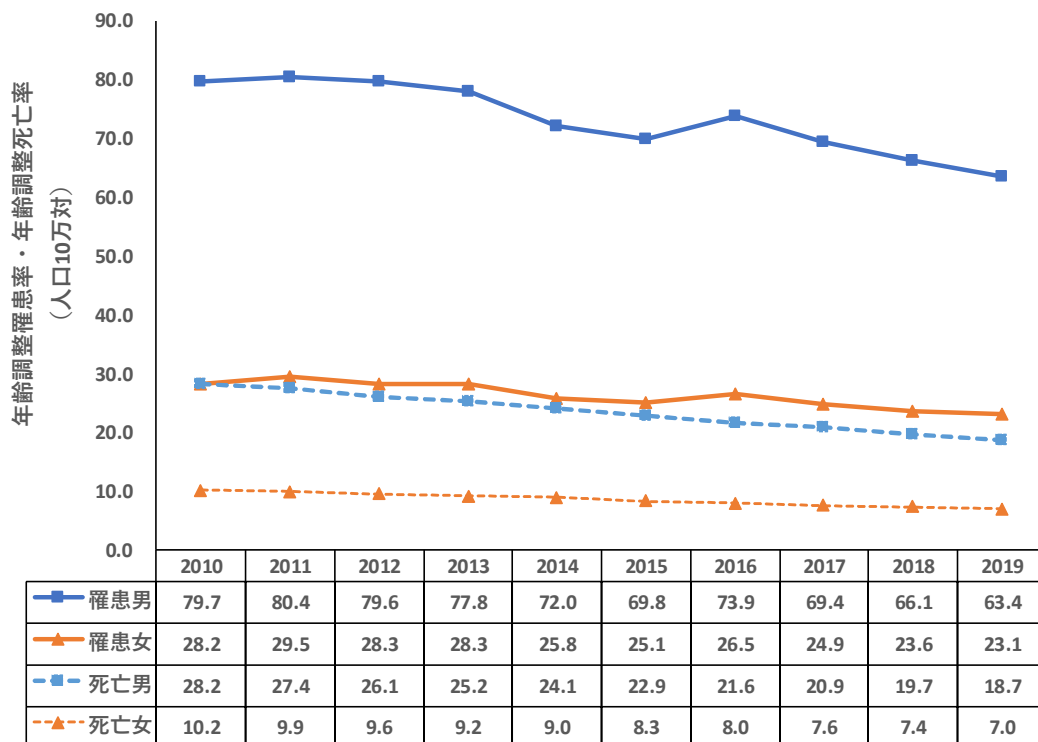
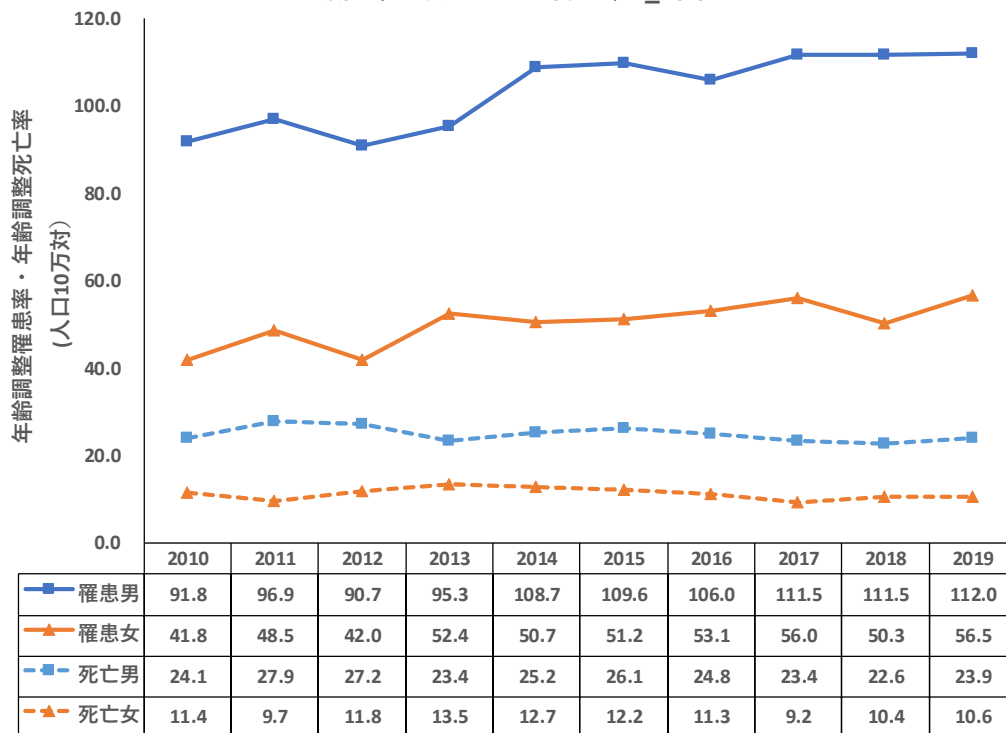


図 19-2 (胃) 年齢調整罹患率と年齢調整死亡率の年次推移

大腸（上皮内がん含む）_沖縄



大腸（上皮内がん含む）_全国

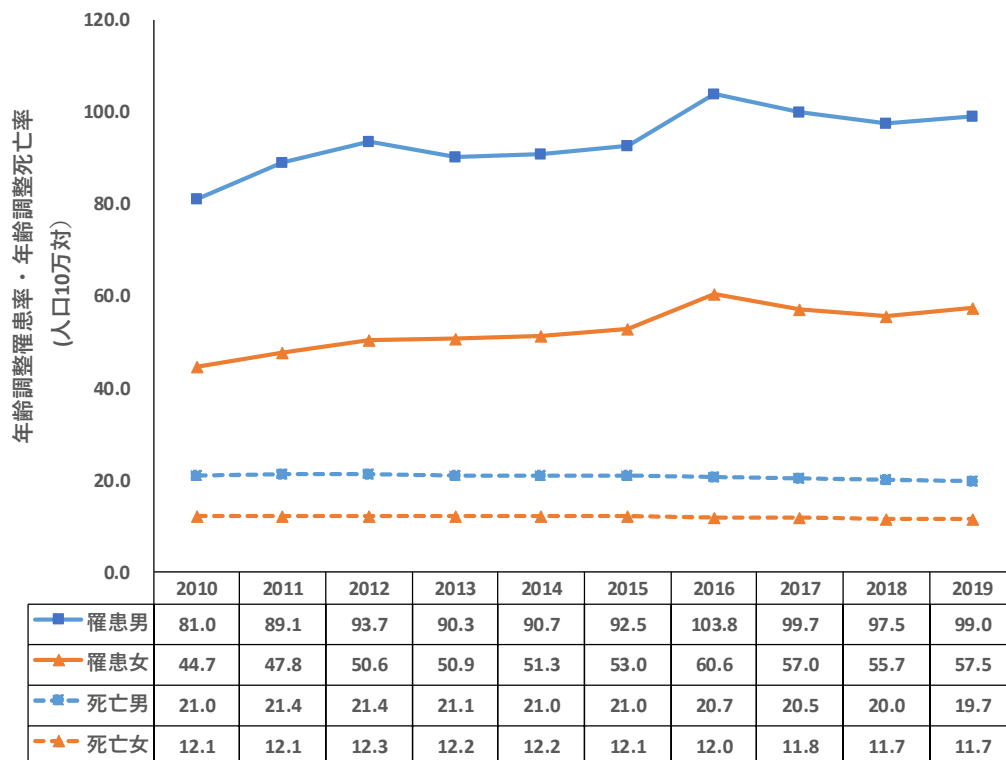
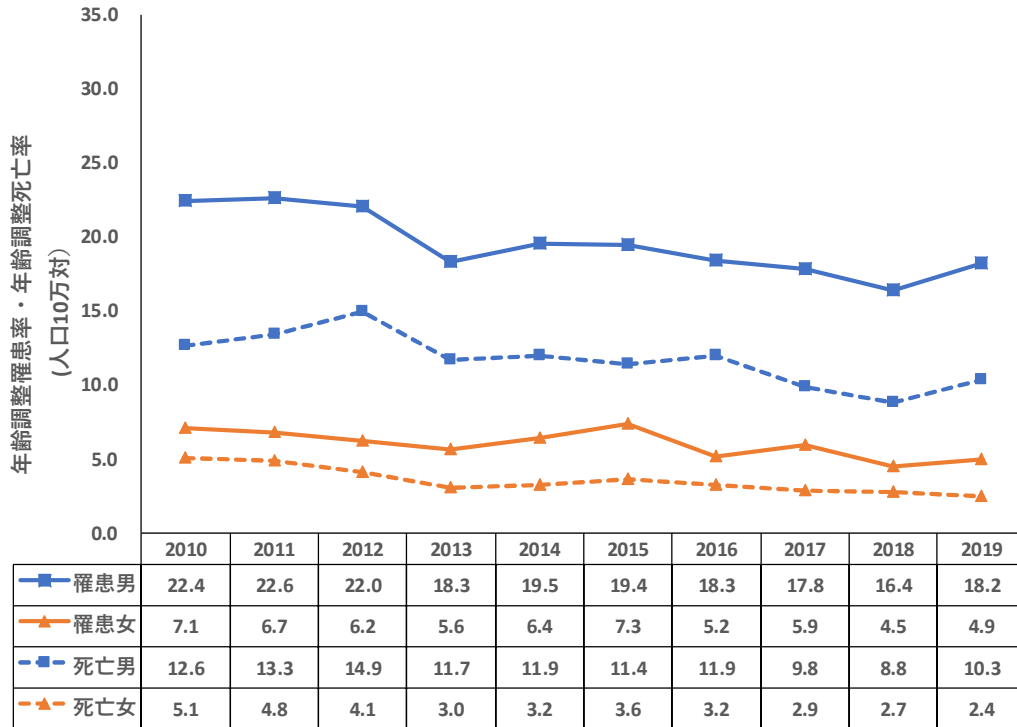


図 19-3（大腸（結腸・直腸）） 年齢調整罹患率と年齢調整死亡率の年次推移

肝および肝内胆管_沖縄



肝および肝内胆管_全国

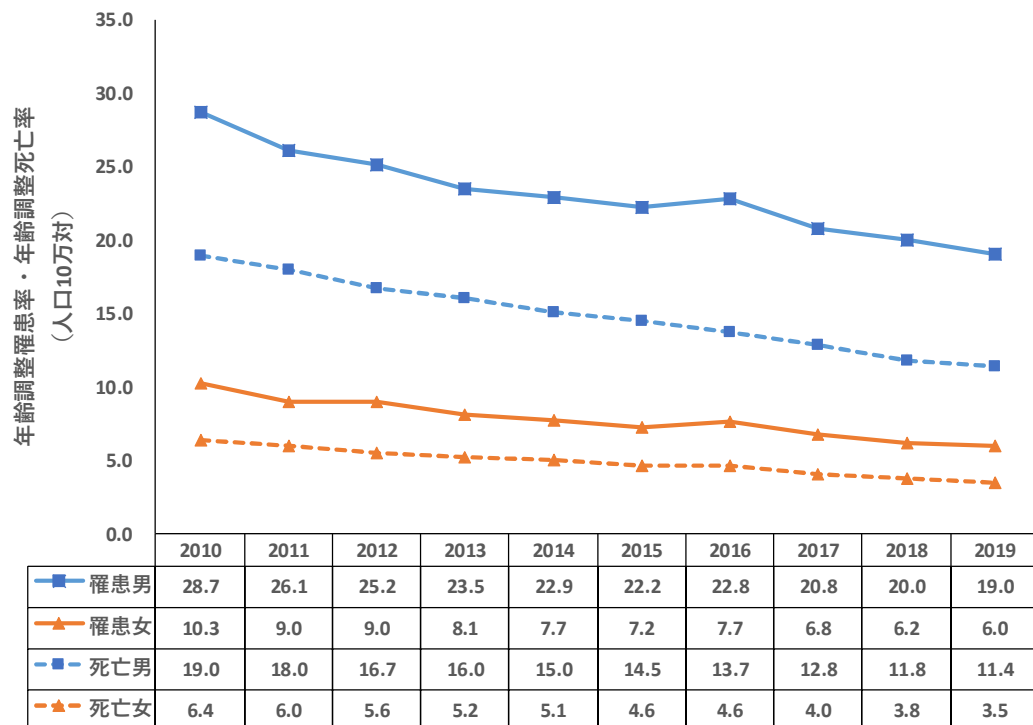


図 19-4 (肝および肝内胆管) 年齢調整罹患率と年齢調整死亡率の年次推移

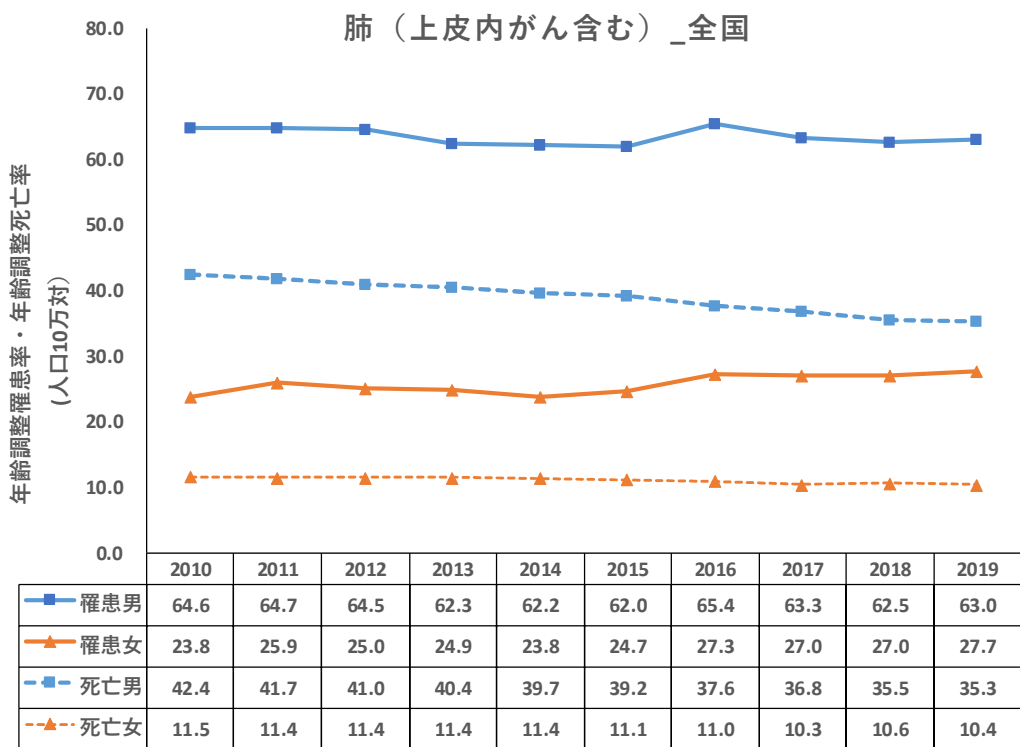
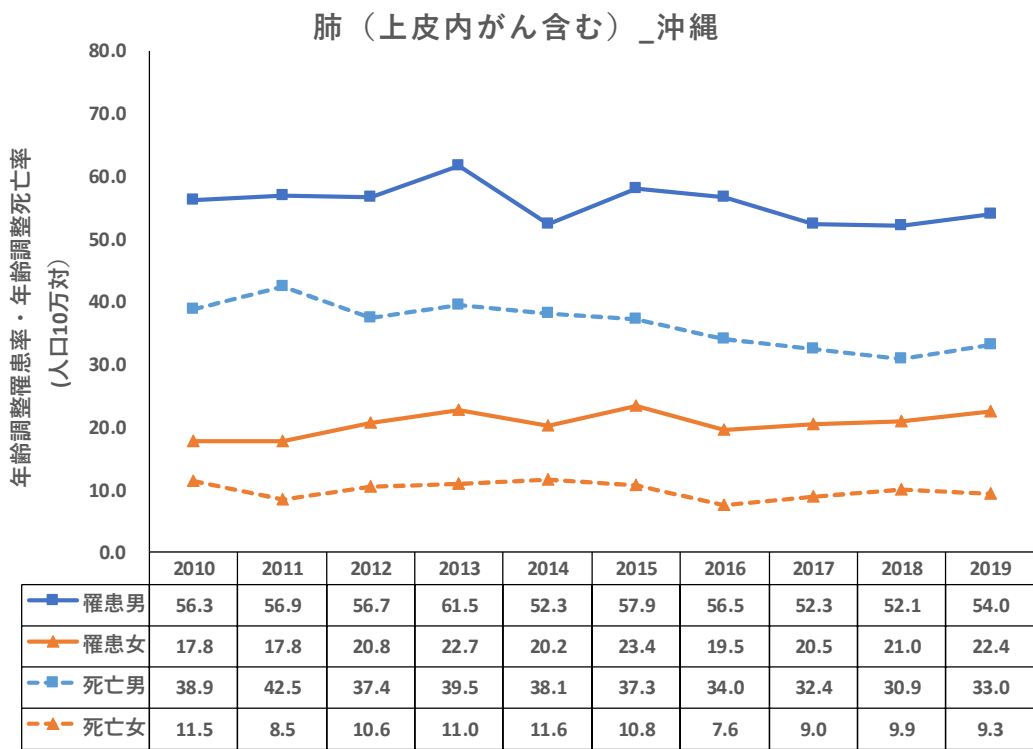
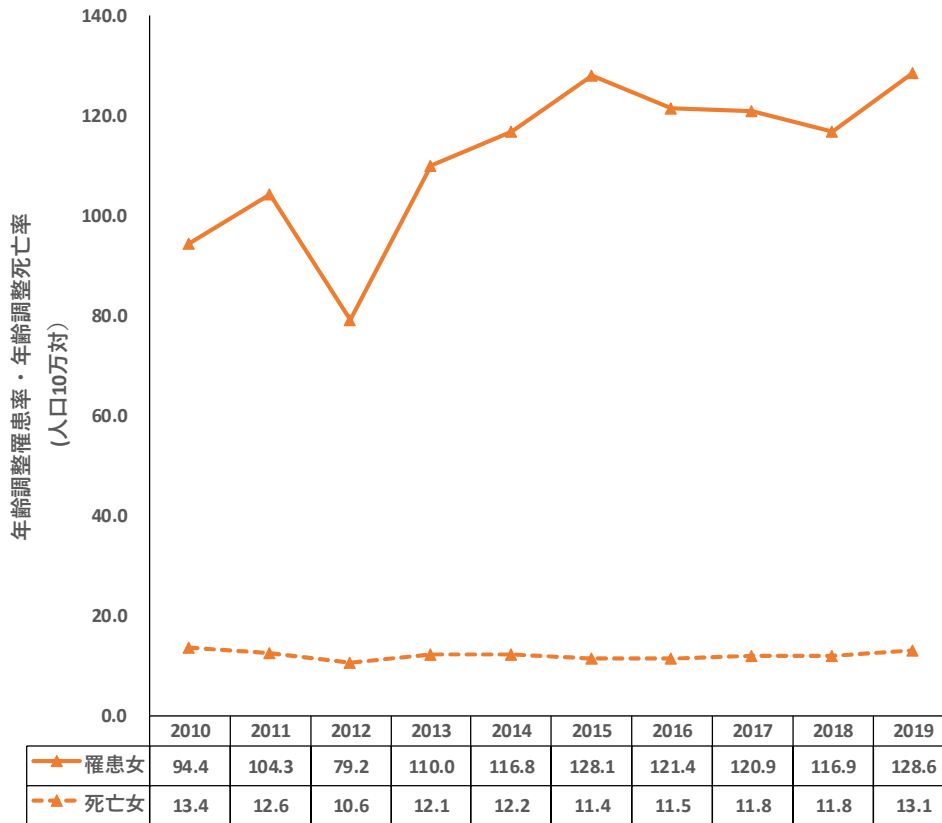


図 19-5（肺） 年齢調整罹患率と年齢調整死亡率の年次推移

乳房・女（上皮内がん含む）_沖縄



乳房・女（上皮内がん含む）_全国

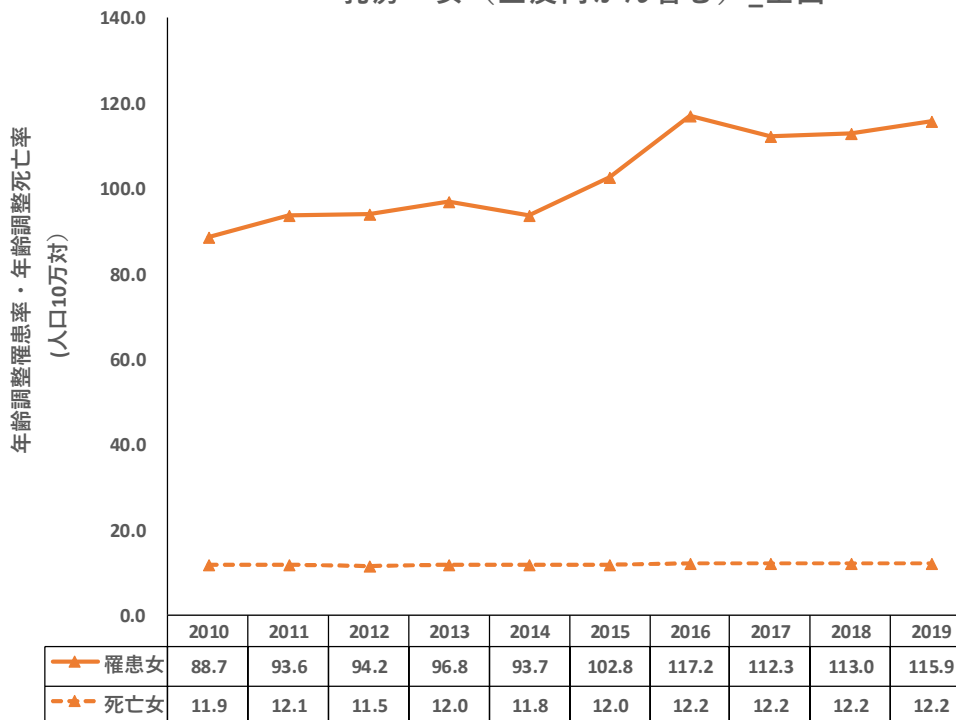
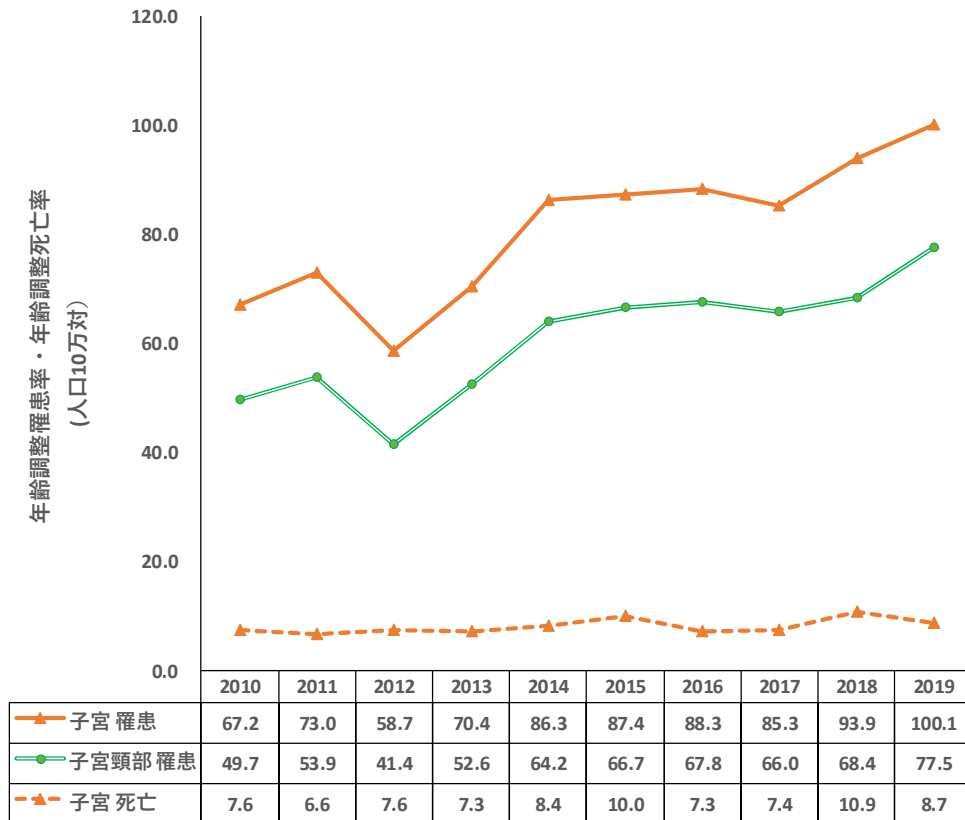


図 19-6（乳房）年齢調整罹患率と年齢調整死亡率の年次推移

子宮（上皮内がん含む）_沖縄



子宮（上皮内がん含む）_全国

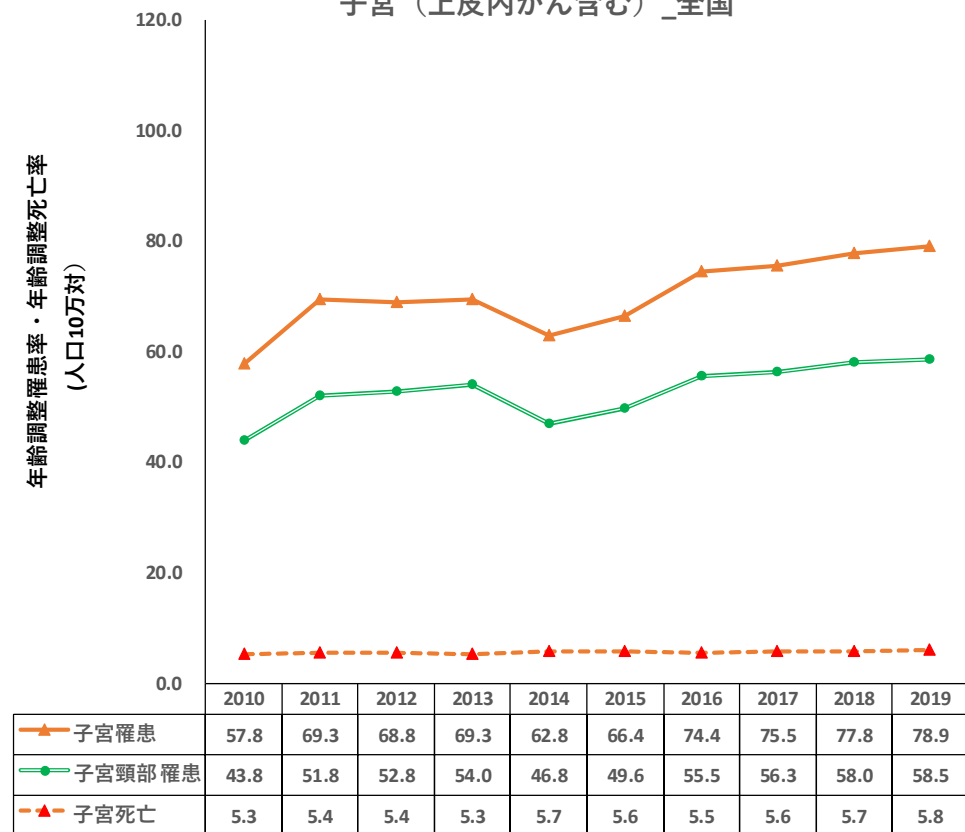


図 19-7（子宮）年齢調整罹患率と年齢調整死亡率の年次推移

